

事業報告書

平成18年度

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

学校法人 慈恵大学

目 次

以下の各目次をクリックすると、該当ページへ移動することが可能です。

I. 学校法人慈恵大学	
1. 慈恵大学行動憲章	1
2. 慈恵大学行動規範	2
3. 平成18年度事業報告	4
4. 平成18年度決算書	9
5. 学校法人慈恵大学の体制	15
1) 学校法人慈恵大学	15
2) 東京慈恵会医科大学	15
3) 看護専門学校	15
6. 学校法人慈恵大学組織図	16
7. 理事会	17
8. 評議員会	21
9. 監査室	22
II. 東京慈恵会医科大学	
1. 教授、その他の人事	25
1) 平成19年3月31日退任教授	25
2) 新任教授	25
3) 新任客員教授	25
4) 特任教授	26
2. 教職員数	27
1) 教員数（医学科・看護学科）	27
2) 初期臨床研修医数	27
3) 職員数（看護師を含む）	27
4) 看護師数	27
3. 教 育	28
1) 医学部医学科学生数	28
2) 医学部看護学科学生数	28

4. 研 究	37
1) 教育研究助成委員会など	37
2) 総合医科学研究センター	37
5. 診 療	39
1) 病院概況	39
(1) 本 院	39
(2) 青戸病院	42
(3) 第三病院	44
(4) 柏 病 院	45
(5) 病床数および外来患者数	48
6. 学術情報センター	52
7. 教育センター	54
8. その他	57
1) 成 医 会	57
2) 各種行事	57
3) 印刷物等の発行	58

[付]

1. 中期目標・中期計画・平成19年度事業計画	60
2. 本学出身者・関係者の他大学教授等一覧表	63

I . 学校法人慈惠大学

1. 慈恵大学 行動憲章

H16. 9. 24 制定

H17. 2. 24 改正

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。

全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

2. 慈恵大学 行動規範

H17. 3. 24制定

(目的)

第1条 慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

【建学の精神】

「病気を診ずして 病人を診よ」

私たちは病気そのものの診断と治療だけでなく、病を持っている人の心をよく理解し、不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんにとって最適かつ、最良の医療を提供することを第一とする。

また、病める人の心の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師、および「看護の心」を持つ看護師の養成を目指す。

【病院の理念】

- ・患者さんの立場に立った医療を実践する
- ・最高かつ最善の医療を提供する
- ・良き医療人を育成する

【病院の基本方針】

- ・患者さんを中心とした医療を実践する
- ・安全かつ質の高い医療を提供する
- ・心ある医療従事者を育成する
- ・病院内外の医療従事者のために、広く教育・研修の場を提供する
- ・質の高い先進的な臨床医学研究を推進する
- ・他の医療機関との連携を推進し、地域と密着した総合的医療サービスを実践して社会に貢献する

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係（患者関係含む）に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大

切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不透明、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案（告発）窓口に提案することができる。

2. 提案者（告発者）については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附則1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。

2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

3. 平成18年度 事業報告

理事長 栗原 敏

I. 平成18年度の事業概要

平成18年度は、これまで整備してきた大学運営基盤の上に、中・長期事業計画の基本方針に則り、具体的な事業計画を立てて実施することを目的として、学校法人慈恵大学の管理・運営、教育・研究、診療・医療安全に関する以下の事業を行った。

事業計画の基本方針は、(1)社会のニーズに応えることのできる医療人育成を目指し、卒前・卒後教育の改善を推進すること、(2)臨床を支える特色ある研究を振興するために大学院を中心とした研究の活性化と研究費獲得の改善を図ること、(3)附属病院では安全で質の高い医療を提供し患者サービスの向上を図るための具体策を実施すること、(4)特色ある診療と4附属病院の機能分化を推進し、4附属病院間の有機的連携を図ること、(5)健全な財政基盤を築くために無駄な経費を削減し医療収入の増収を図ること、(6)青戸病院の新築（平成20年度着工予定）と本院外来棟建築（平成23年度着工予定）など新しい建築計画に向けてプロジェクトチームを立ち上げ具体的な計画を立てること、などであった。

1. 法人運営に関する計画

1) 法令遵守の精神の徹底

- (1) 内部監査室が中心となり公的補助金の監査を実施し、公的資金の適切な使用の確認と指導を行った。
- (2) 本学の公益通報制度を周知徹底させるために携帯用カードを作成して全教職員に配布し、法令遵守精神の涵養に努めた。
- (3) 個人情報保護に関するシンポジウムを開催した他、個人情報保護法に抵触する各種の事例をオールユーザーメールで教職員及び学生に配信し、継続的に注意喚起を行った。

2) 医療安全管理の推進

- (1) 4附属病院における医療安全管理体制を多様な視点から点検・評価するため、東京大学と早稲田大学の人間工学研究室と共同研究を行い、その成果の発表会を行った。
- (2) 医療安全に関する定期的にリスクマネジメントシンポジウム、医療安全管理と倫理のワークショップ、医療安全週間などを開催した。
- (3) 各附属病院長が医療安全管理に適切に対応出来るように、病院長管理の医療安全管理予算を設け、有効に活用した。

3) 安定した財政基盤の整備

- (1) 人件費抑制に向けた業務改善、効率的な要員配置による職員数の純減について検討を開始した。また、労働生産性を高めるために就業時間を見直した。
- (2) 診療報酬のマイナス改訂を補完するため、新看護加算を4附属病院で算定できるよう看護師確保に取組み成果を上げた。また、医療収入予算を年度途中で見直し、増収対策に積極的に取組んだ。
- (3) 学内横断的タスクフォースの成果をイントラネットで公開し、情報を各部署で共有できるようにした。また、タスクフォースを全学的に拡大し推進した。

4) 人材育成システムの構築

- (1) 評価に基づいた人材育成システムの構築を目標に、教員評価システムの構築に取組みほぼ完成させた。

5) 広報活動の充実

- (1) 社会的な問題が発生したときに対外的に対応できる広報体制を組織し、迅速に対処した。

6) 青戸病院新築に向けての体制作り

- (1) 青戸病院の新築に向けて、青戸病院リニューアル・タスクフォースを編成して、新しい青戸病院のコンセプトを作成し公表した。

7) 大規模災害発生時の危機管理体制の構築

- (1) 西新橋校・附属病院合同防火災害対策委員会が大規模災害発生時の対策マニュアルを作成した。各機関でも当マニュアルを参考にして、大規模災害発生時の対策マニュアルを作成することにした。

8) IT化の推進

- (1) ITあり方検討会において、診療部門のIT化を推進するためにグランドデザインの再構築を検討した。
- (2) 平成19年5月2日から、附属病院オーダーリングシステムを稼働させることを目標に具体的な準備に取り組んだ。

9) 大学協力病院との連携強化

- (1) 地域医療の充実や卒後教育のため大学協力病院との連携強化を目指したが、医師不足のため連携を推進することが困難であった。

2. 教育・研究に関する計画

1) 特色ある教育・研究の推進

- (1) 講座等あり方検討委員会の答申にそって、講座の一部改編および新設、名称変更などを実施した。講座等あり方検討委員会を発展的に解消し、大学機構検討会を設置して大学機構全体を継続的に検討することにした。
- (2) 教育センターの体制が整い、医学教育、看護教育、卒後臨床研修、専門修得コースへの支援業務を開始した。
- (3) 新しい体制となった大学院研究科委員会において、大学院教育カリキュラム、および研究指導体制、学位申請および審査方法の改善について検討し、平成19年度から実施することになった。
- (4) 看護学科に大学院修士課程を設置するために、看護学科大学院修士課程設置準備室を開設し、申請手続きの準備を開始した。
- (5) 文部科学省平成18年の「現代的教育ニーズ支援プログラム」に本学が申請した「卒前教育教材から生涯継続学習教材へ」が採択された。

2) 卒前・卒後教育の改善

- (1) 看護学科のあり方と看護専門学校の統合・再編について検討し、看護学科の定員を40名に増員した。また、青戸看護専門学校を平成22年3月31日付で閉校することを決定した。
- (2) 大学基準協会の評価で指摘された改善事項について中間報告書を作成し、協会へ提出した。
- (3) 初期臨床研修と専門修得コースのプログラムを改善し、ホームページに掲載して募集を推進した。
- (4) GKT（英国）およびプロビデンス病院（米国）との教育交流の一環として講演会を開催した。

3) 入学試験の改善

- (1) 医学科入学試験を平成19年1月28日（一次試験）に一本化した。このため、二次試験の面接は2月8日・9日・10日の三日間実施したが、特に混乱はなかった。
- (2) 看護学科の定員を1学年40名に変更し、今回の入学試験から募集人員を40名とした。

4) 教員組織の改定

- (1) 文部科学省による新しい教員組織（教授、准教授、講師、助教）の改定に向けて検討委員会を設置し、平成19年度から新教員組織となった。

3. 診療に関する計画

1) 医療安全管理の徹底

- (1) 医療安全管理室を医療安全推進室と改称して機能を強化し、附属病院間で相互ラウンドを行うなど4病院間の連携を図った。

- (2) 平成18年度も継続して医療安全管理に関するワークショップ、シンポジウム、医療安全週間を開催し、教職員の医療安全に対する意識を高めた。

2) 先進医療の推進

- (1) 低侵襲的な手術を中心とした先進医療のトレーニングシステムの構築を図った。

3) 患者サービス・病診連携の推進

- (1) 附属病院に患者支援・医療連携センターを設置し、患者支援を推進した。
- (2) 社会とのコミュニケーションを強化するため、積極的に医療情報を発信して広報活動を行った。

4) 効率的な医療の推進

- (1) クリニカルパスの推進、看護支援システムの導入により治療の標準化を図り、安全で効果的な医療の提供に努めた。
- (2) 平成19年5月の附属病院オーダリングシステム導入に向けて準備した。
- (3) 医師、看護師、コメディカルの業務分担を見直すための検討を開始した。
- (4) 学内横断的タスクフォースの取組みを4附属病院に拡大し、収益力の強化と業務の効率化に取り組んだ。

5) 青戸病院の新築準備と4附属病院機能分化

- (1) 成医会総会でのディスカッションとコンサルテーションの結果を踏まえて青戸病院新築計画を具体化するために、青戸病院リニューアル・タスクフォースを組織し、検討を開始した。

6) 予防医学の構築

- (1) 健診センターの組織を再編し、「総合健診・予防医学センター、新橋健診センター、晴海健診センター」を設置した。各病院の健診部門との連携を深め発展させるとともに、予防医学への取組みを進めることにした。

7) 森田療法センターの開設

- (1) 森田療法を広く世界に発信するため第三病院に森田療法センターを開設することにした。

4. 18年度の主な事業計画（建設工事）

1) 法人事務局

なし

2) 西新橋建築計画

- (1) 大学2号館設備整備工事（H19.3完了）
（第3期：4階、5階冷暖房機器更新工事）
- (2) 中央棟OP画像を大学1号館講堂へ配信システム工事（H18.7完了）
- (3) 臨床講座主任教授室新任に伴う大学2号館10階他改修工事
 - ① 丸毛教授室・大木教授室新設工事（H18.5完了）
 - ② 相羽教授室設置工事（H18.11完了）
 - ③ 桑野教授室設置工事（H19.3完了）
 - ④ 看護学科教員控室並びに実習生控室設置工事（H19.3完了）
- (4) 大学2号館地下1階教育センター設置工事（H18.5完了）
- (5) ME研究室拡張工事（H18.11完了）

3) 国領校

- (1) 国領校本館階段室塔屋電気室前天井アスベスト封じ込め工事（H19.3完了）
- (2) 狛江通り拡幅に伴う国領校敷地セットバック工事（H19.2～H19.3）

4) 本院建築計画

- (1) 外来棟（A棟）エレベーター到着表示灯設置工事（H18. 5完了）
- (2) サイン工事
 - ① 院内サイン改修工事（H18. 5完了）
 - ② 管理棟脇「慈恵医大病院」の案内看板設置工事（H18. 7完了）
- (3) 血液浄化部移転に伴う6 E 病棟改修工事（H18. 3着工～H18. 6完了）
- (4) スターバックス出店工事（H18. 8完了：経費は慈恵実業負担）
- (5) 画像診断部関係
 - ① 外来棟X線 TV 更新工事（骨塩定量検査室移転含む）（H18. 6完了）
 - ② 外来棟No.6室 CTを16列 CTに更新（機器の入替のみ：H18. 8完了）
 - ③ 外来棟No.7室 CTを2管球 CTに更新（H18. 9完了）
 - ④ 外来棟3階超音波検査室改修工事（H18. 10）
 - ⑤ 外来棟No.15室 MR 更新工事（H19. 3完了）
- (6) 医療ガス設備整備工事（H18. 12完了）
- (7) 院内各所防犯カメラ設置工事（H18. 12完了）
- (8) ペインクリニック医師控室設置工事（H19. 2完了）
- (9) ポケットベル・サービス打ち切りに伴う PHS 電波不感帯へのアンテナ設置工事（H19. 3完了）

5) 青戸病院建築計画

特別会計工事は、なし

6) 第三病院建築計画

特別会計のみ

- (1) 内科プレハブ建替（研究棟増築）工事（H18. 12～H19. 3）
- (2) 森田療法センター設置に伴う改修工事（H19. 1～H19. 4完了）

7) 柏病院建築計画

特別会計のみ

- (1) リハビリ施設拡張工事及び関連工事（H18. 7完了）
- (2) 柏病院注射薬自動払出システム導入に伴う電源コンセント増設と空調設備工事（H18. 11完了）
- (3) 栄養部厨房改修工事（H19. 3着工～H19. 7完了予定）

※事業計画外の工事も記載。（ただし、分院は特別会計のみ記載）

平成18年度決算について

1. はじめに

平成18年度は、青戸病院建設や本院外来棟建設等の将来計画を見据え「新しい事業計画をスタートする年」として予算計画をたてましたが、診療報酬は▲3.16%と厳しい環境下にありました。一方新たな看護基準体制が診療報酬制度に組み込まれたことから、本学はこれにも取り組んだ結果、平成18年度は医療収入を大幅に伸ばすことができました。これにより、青戸病院や本院外来棟の建築計画は、より具体化されることになりました。

2. 消費収支計算書

平成18年度は、診療体制の充実を図り、また「7：1看護基準」の導入等が効果を奏し、医療収入は671億円（前年比+25億円）を計上することができました。その結果、帰属収入の合計は771億円となり、前年に比較して27億円増加しました。

一方、消費支出は、人件費が13億円増加しましたが、諸経費の圧縮に努め消費支出の合計は750億円となり、前年に比較して17億円の増加に止めました。

これにより帰属収支差額は21億円となりました。これは前年に比較して11億円増加したことになります。

3. 資金収支計算書

資金収支計算書は、前年度より繰り越した資金が316億円ありましたが、次年度への繰越資金は326億円となり、繰越資金は10億円増加しました。

4. 貸借対照表

資産勘定のうち固定資産は、設備投資22億円を実施しました。また青戸病院建設のための特定引当資産12億円と退職給与引当特定預金5億円の積上げを行いました。

一方今年度は減価償却を49億円行いましたので固定資産合計は967億円で、前年比5億円増加しました。流動資産は、預貯金等で7億円増加し440億円となりました。

負債勘定のうち固定負債は、長期借入金の返済が進んだこと等により、前年に比較して9億円減少し325億円となりました。流動負債は、ほぼ前年と同額の129億円となりました。

基本金は、当年度基本金組入額は9億円でした。青戸病院建設に伴う2号基本金を新たに積上げたこと等で、基本金の部は953億円となりました。

5. 決算書開示方法について

- ① 平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで表示しております。
- ② 貸借対照表における未収入金は、徴収不能引当金¥236,213,399円を控除して表記していません。

4. 平成18年度決算書

1) 平成18年度資金収支計算書

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
人 件 費 支 出	34,395,506,569	学 生 生 徒 納 付 金 収 入	2,703,410,000
教 育 研 究 経 費 支 出	32,245,257,061	手 数 料 収 入	160,843,300
教 育 研 究 費 支 出	10,237,785,071	寄 付 金 収 入	1,131,265,271
医 療 経 費 支 出	22,007,471,990	補 助 金 収 入	3,599,772,253
管 理 経 費 支 出	2,438,976,223	資 産 運 用 収 入	175,557,436
		資 産 売 却 収 入	296,510,688
		事 業 収 入	67,709,041,579
借 入 金 支 払 利 息 支 出	373,512,325	医 療 収 入	67,096,199,267
借 入 金 返 済 支 出	3,312,450,000	雑 収 入	1,009,127,097
施 設 関 係 支 出	674,698,185	借 入 金 収 入	1,900,000,000
設 備 関 係 支 出	1,347,114,829	前 受 金 収 入	639,962,508
資 産 運 用 支 出	2,200,000,000	そ の 他 の 収 入	10,870,534,188
そ の 他 支 出	10,952,389,909		
資 金 支 出 調 整 勘 定	-10,422,441,299	資 金 収 入 調 整 勘 定	-11,634,649,200
期 末 未 払 金	-10,422,441,299	期 末 未 収 入 金	-11,039,971,692
長 期 未 払 金		前 期 末 前 受 金	-594,677,508
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	32,680,562,945	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	31,636,651,627
支 出 の 部 合 計	110,198,026,747	収 入 の 部 合 計	110,198,026,747

平成19年6月文部科学省へ提出

2) 平成18年度消費収支計算書

自 平成18年 4月 1日 至 平成19年 3月 31日

(単位：円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	34,759,167,889	学生生徒納付金	2,703,410,000
教育研究経費	36,708,272,097	手数料	160,843,300
教育研究経費	13,417,924,371	寄付金	1,301,206,838
医療経費	23,290,347,726	補助金	3,599,772,253
管理経費	2,862,619,487	国庫補助金	3,426,468,000
借入金利息	373,512,325	資産運用収入	175,557,436
資産処分差額	11,939,614	資産売却差額	292,194,338
徴収不能額	63,035,071	事業収入	67,709,041,579
徴収不能引当金繰入額	236,213,399	医療収入	67,096,199,267
合計	75,014,759,882	雑収入	1,212,266,130
消費支出の部合計	75,014,759,882	(うち徴収不能引当金戻入額)	(203,139,033)
消費収入超過額	1,270,531,070	合計	77,154,291,874
合計	76,285,290,952	帰属収入の部合計	77,154,291,874
		基本金組入額合計	-869,000,922
		合計	76,285,290,952

平成19年 6月文部科学省へ提出

3) 平成18年度貸借対照表
平成19年3月31日現在

(単位：円)

資 産	の	部	
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	96,656,911,298	96,170,070,981	486,840,317
有 形 固 定 資 産	91,568,507,698	94,279,667,381	-2,711,159,683
地	6,331,396,224	6,331,512,574	-116,350
建 物	69,492,749,173	71,252,472,825	-1,759,723,652
構 築 物	269,056,442	298,590,892	-29,534,450
教育研究用機器備品	9,148,973,946	9,649,075,599	-500,101,653
その他の機器備品	3,482,618,852	4,183,430,912	-700,812,060
図 書	2,611,052,447	2,520,101,510	90,950,937
車 輜	1,314,881	741,161	573,720
建 設 仮 勘 定	208,183,825	20,580,000	187,603,825
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
その他の固定資産	5,088,403,600	1,890,403,600	3,198,000,000
差 入 保 証 金	358,403,600	360,403,600	-2,000,000
有 価 証 券	2,530,000,000	1,030,000,000	1,500,000,000
退職給与引当特定預金	1,000,000,000	500,000,000	500,000,000
青戸病院建築引当特定資金	1,200,000,000	0	1,200,000,000
流 動 資 産	44,018,694,299	43,306,009,786	712,684,513
現 金 預 金	32,680,562,945	31,636,651,627	1,043,911,318
未 収 入 金	10,943,862,255	10,286,565,572	657,296,683
貯 蔵 品	63,211,340	39,365,088	23,846,252
短 期 貸 付 金	242,569,363	234,572,935	7,996,428
有 価 証 券	22,563,220	1,022,563,220	-1,000,000,000
仮 払 金	65,925,176	86,291,344	-20,366,168
合 計	140,675,605,597	139,476,080,767	1,199,524,830
負 債	の	部	
固 定 負 債	32,607,159,870	33,383,139,462	-775,979,592
長 期 借 入 金	15,380,900,000	16,600,175,000	-1,219,275,000
退職給与引当金	17,019,031,782	16,655,370,462	363,661,320
長 期 未 払 金	62,198,500	127,594,000	-65,395,500
保 証 金	145,029,588	0	145,029,588
流 動 負 債	12,732,837,562	12,896,865,132	-164,027,570
短 期 借 入 金	1,219,275,000	1,412,450,000	-193,175,000
未 払 金	10,476,652,699	10,507,951,342	-31,298,643
前 受 金	639,962,508	594,677,508	45,285,000
預 り 金	395,427,355	234,961,694	160,465,661
保 証 金	1,520,000	146,824,588	-145,304,588
基 本 金 の 部	95,335,608,165	93,196,076,173	2,139,531,992
基 本 金	136,572,555,041	135,703,554,119	869,000,922
第 1 号 基 本 金	129,458,522,659	129,810,655,419	-352,132,760
第 2 号 基 本 金	1,200,000,000	0	1,200,000,000
第 4 号 基 本 金	5,914,032,382	5,892,898,700	21,133,682
翌年度繰越消費支出超過額	-41,236,946,876	-42,507,477,946	1,270,531,070
平成18年度消費支出準備金	0	0	0
合 計	140,675,605,597	139,476,080,767	1,199,524,830

平成19年6月文部科学省へ提出

* 徴収不能引当金¥236,213,399円は未収入金から控除されています。

4) 主要な財務指標の推移

区 分	平成 13年度	平成 14年度	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度
消費収支関係財務比率（単位：％）						
①消費支出比率（消費支出／帰属収入）	93.1%	97.9%	97.1%	101.7%	98.6%	97.2%
②学生生徒等納付金比率（学生生徒等納付金／帰属収入）	3.4%	3.6%	3.4%	3.6%	3.6%	3.5%
③寄付金比率（寄付金／帰属収入）	1.5%	2.2%	1.2%	2.0%	1.2%	1.7%
④補助金比率（補助金／帰属収入）	7.7%	5.7%	5.9%	5.9%	5.5%	4.7%
⑤医療収入比率（医療収入／帰属収入）	85.1%	86.1%	86.5%	85.8%	86.8%	87.0%
⑥人件費比率（人件費／帰属収入）	42.6%	43.9%	45.3%	47.1%	44.9%	45.1%
⑦教育研究経費比率（教育研究経費／帰属収入）	46.4%	49.4%	47.7%	48.9%	49.2%	47.6%
⑧帰属収支差額比率（100％－消費支出比率）	6.9%	2.1%	2.9%	－1.7%	1.4%	2.8%
貸借対照表関係財務比率（単位：％）						
①流動比率（流動資産／流動負債）	299.0%	293.5%	311.5%	334.1%	336.0%	341.8%
②固定比率（固定資産／自己資金）	111.4%	112.1%	108.2%	106.5%	103.2%	101.4%
③固定長期適合率（固定資産／（自己資金＋固定負債））	77.4%	79.1%	78.0%	77.2%	76.0%	75.6%
④負債比率（総負債／自己資金）	60.3%	57.0%	53.2%	51.4%	49.7%	47.6%
⑤自己資金比率（自己資金／総資産）	62.4%	63.7%	65.3%	66.1%	66.8%	67.8%

* 自己資金＝基本金＋消費収支差額

平成19年6月文部科学省報告

財 産 目 録
平成 19 年 3 月 31 日

学校法人 慈恵大学

科 目	数 量	金 額(円)
一、基本財産		96,656,911,298
1. 土地	155,202.81m ²	6,331,396,224
(1)校地	55,338.48m ²	1,262,224,051
(2)その他	99,864.33m ²	5,069,172,173
2. 建物	287,340.16m ²	69,492,749,173
(1)法人本部	4,813.62m ²	976,037,297
(2)一般校舎	72,210.06m ²	15,933,469,992
(3)図書館	3,882.20m ²	137,215,511
(4)講堂	1,168.99m ²	129,333,378
(5)その他	205,265.29m ²	52,316,692,995
3. 図書	334,319冊	2,611,052,447
4. 教具、校具、備品	7,562件	12,631,592,798
5. その他		5,590,120,656
二、運用財産		44,018,694,299
1. 現金、預金		32,680,562,945
2. 有価証券		22,563,220
3. 未収入金		10,943,862,255
4. その他		371,705,879
資産の部合計		140,675,605,597
三、固定負債		32,607,159,870
1. 長期借入金		15,380,900,000
2. 退職給与引当金		17,019,031,782
3. 長期未払金		62,198,500
4. 保証金		145,029,588
四、流動負債		12,732,837,562
1. 短期借入金		1,219,275,000
2. 未払金		10,476,652,699
3. 前受金		639,962,508
4. その他		396,947,355
負債の部合計		45,339,997,432
純 資 産		95,335,608,165

上記の通り相違ありません。

平成19年 5月 24日

監 事 濱 邦 久



監 事 岡 島 進 一 郎



監 査 報 告 書

平成19年5月24日

学校法人 慈恵大学
理事長 栗原 敏 殿

学校法人 慈恵大学

監事

濱 邦久 

監事

岡島 進一郎 

私たち学校法人慈恵大学の監事は、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第15条の定めに基づき、平成18年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の財産状況、及び理事の業務の執行を監査いたしました。その結果について以下の通り報告いたします。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査を実施し、計算書類の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、また、関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人慈恵大学の平成19年3月31日現在の財政状態、及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。
- (2) 理事の業務執行に関しては、不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。

以上

5. 学校法人慈恵大学の体制（平19.4.1.）

1) 学校法人慈恵大学

理事 長：栗原 敏
専務理事 事：高木 敬三
常務理事 事：梅澤 祐二、谷口 郁夫
理事 事：森山 寛、伊藤 洋、坂井 春男、久保 政勝、落合 和徳
田嶋 尚子、橋本 和弘、小路美喜子、高橋実貴雄、岩田 正晴
林 栄太郎、前田 新造
監事 事：濱 邦久、岡島進一郎
顧問 問：阿部 正和、岡村 哲夫、小森 亮、佐々木正峰
評議員会議 長：渡邊 盛雄

2) 東京慈恵会医科大学

学 長：栗原 敏
医 学 科 長：田嶋 尚子
看護学 科 長：栗原 敏（兼任）
大学院医学研究科 長：栗原 敏
附属病院 長：森山 寛 副院長：橋本 和弘
落合 和徳
谷口 郁夫
青戸病院 長：伊藤 洋 副院長：吉田 和彦
栗田 正
第三病院 長：坂井 春男 副院長：伊藤 文之
根津 武彦
中村 敬
柏病院 長：久保 政勝 副院長：小林 進
清水 光行
内田 満
学術情報センター 長：兼平 千裕
生涯学習センター 長：栗原 邦弘
教育センター 長：福島 統
総合医科学研究センター 長：栗原 敏

3) 看護専門学校

慈恵青戸看護専門学校 長：武田 信彬
慈恵第三看護専門学校 長：横山 淳一
慈恵柏看護専門学校 長：笠原 洋勇
〔慈恵看護専門学校 長：真柄 直郎〕

7. 理事会

定例理事会の開催状況（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

議 事	内 容
<p>平成18年4月27日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 青戸看護専門学校の開校について</p> <p>3) オーダリングシステムの導入について（附属病院本院）</p> <p>4) 青戸病院建替えプロジェクトについて</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成18年度事業計画</p> <p>(2) 平成17年度経常費補助金の受給額</p> <p>(3) 決算における徴収不能金の計上額</p> <p>(4) 平成18年度医療安全管理予算の件</p> <p>(5) 平成18年度俸給表</p> <p>(6) 看護職員採用状況及び看護学科、看護専門学校卒業生の状況</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>学生数、国試結果、講座担当教授選考委員会</p> <p>看護専門学校入学者数、平成18年度科学研究費など</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 青戸病院医療事故安全管理外部評価委員会報告書に関して</p> <p>(2) 平成18年度初期臨床研修医採用の件</p> <p>(3) レジデントの採用状況</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成18年5月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 平成17年度決算</p> <p>2) 夏季賞与資金借入れについて</p> <p>3) 教員人事</p> <p>4) 看護学科募集定員の変更 について</p> <p>平成19年4月1日付 30名 → 40名</p> <p>5) 看護学科初年度納入金の分納について</p> <p>平成19年4月入学者から初年度納入金150万円を分納可能</p> <p>前期100万円（入学金50万円+授業料50万円）、後期50万円（授業料50万円 9月30日までに納入）</p> <p>6) 職員管理職人事</p>	<p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 藤田順子慈恵看護教育奨励基金運用規程</p> <p>(2) 附属第三病院 狛江市道路拡幅に関する件</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成18年6月22日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 看護専門学校学則改訂</p> <p>（青戸看護専門学校・第三看護専門学校・柏看護専門学校）</p> <p>2) 客員教授委嘱</p> <p>3) 教員人事</p> <p>4) 高齢者雇用安定法の改正に伴う教員の定年後雇用について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 青戸病院医療事故判決について</p> <p>(2) 評議員会の報告</p> <p>(3) 平成17年度学校法人慈恵大学事業報告書</p> <p>(4) 労働組合との交渉結果</p>	<p>(5) 高額寄付について 本多友彦様（本多名誉教授の実兄）</p> <p>(6) 第32回宮崎市立穆佐小学校児童招待（8月8日～10日）</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 文部科学省実地調査 6月30日</p>

議 事	内 容
<p>平成18年 7月27日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 大学院学則改訂</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 文部科学省実地調査報告 6月30日実施</p> <p>(2) 互助会契約施設ローレル開発株式会社の民事再生手続きについて</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 教員評価委員会答申等</p>	<p>(2) 大学ガイド2007</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成18年 9月28日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 職員管理職人事 平成18年10月1日付け</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 創立120周年記念事業募金事務報告〔平成18年9月締分〕</p> <p>(2) 慈恵青戸看護専門学校学生寮の廃止について</p> <p>(3) 学校法人 慈恵大学役員選挙スケジュール(案)</p> <p>(4) 夏季常任理事会報告</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 講座担当教授選考委員会設置など</p> <p>(2) 大学院ガイド配布</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 第三病院都道・市道拡幅に伴う土地貸与について</p> <p>2) 大学隣接地の購入について</p>
<p>平成18年10月26日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 青戸病院リニューアル・タスクフォース報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 大学院関係など</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 初期臨床研修医マッチング結果</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成18年11月30日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 学長の選任</p> <p>2) 附属病院 本院病院長の選任</p> <p>3) 教員人事</p> <p>4) 教員組織見直し検討会答申及び学則の一部改訂について</p> <p>5) 賞与資金借入れについて</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 第三病院道路拡幅に関わる土地売却の件</p> <p>(2) 商標登録について 平成18年10月6日付東京慈恵会、Jikei、図形(校章)、(準校章)、慈恵医大、慈恵大学、慈恵</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 首都大学東京との教育・研究協定書の締結</p> <p>(2) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>

議 事	内 容
<p>平成18年12月28日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 理事長について</p> <p>2) 附属病院 青戸・第三・柏病院長の選任</p> <p>3) 教員人事</p> <p>4) 看護学科特任教員に関する規程(案)</p> <p>5) 本多友彦慈恵医学教育奨励基金運用規程(案)</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成17年度私立医科大学財務状況報告</p>	<p>(2) 第三病院道路拡幅に関わる土地売却の件</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成19年1月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 大学役員の選任</p> <p>(1) 医学研究科長について</p> <p>(2) 医学科長の選任</p> <p>(3) 学術情報センター長の選任</p> <p>(4) 教育センター長の選任</p> <p>(5) 総合医科学研究センター長の選任</p> <p>(6) 各附属病院 副院長の選任</p> <p>(7) 各看護専門学校長の選任</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 管理職職員人事(平成19年4月1日付)</p> <p>4) 平成19年度附属4病院診療部・中央診療部定数表</p>	<p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会日程について</p> <p>3月6日(火)午後3時、5月28日(月)午後3時</p>
<p>平成19年2月22日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 平成19年度予算案について</p> <p>2) 大学役員の選任</p> <p>3) 教員人事</p> <p>4) 社団法人東京慈恵会と学校法人慈恵大学の覚書更新について</p> <p>5) 寄付講座に関する規程案</p> <p>6) 職員人事報告</p> <p>7) 平成19年度基礎系講座定員について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>大学新旧役員(理事・監事・評議員・顧問)懇親会について</p> <p>平成19年4月26日(木)午後6時 ホテルオークラ</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>* 関連当事者との取引調査用紙配布</p>
<p>平成19年2月22日 臨時理事会</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 大学役員の選任</p> <p>(1) 寄附行為第6条第6号理事の選任</p> <p>(2) 専務理事、常務理事の任命</p>	

議 事	内 容
<p>平成19年 3月22日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 平成19年度予算案について</p> <p>2) 特定預金の積上げについて</p> <p>3) 基本金の修正について</p> <p>4) 平成19年度学校法人慈恵大学役員</p> <p>5) 教員人事</p> <p>6) 寄付講座の設置について</p> <p>7) 労働時間の延長について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 医療政策企画室長の契約延長について</p> <p>(2) 平成18年度中に制定・改訂された規程について</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 関連当事者との取引きについて</p> <p>2) 大学役員退任者への慰労金授与 望月正武理事、衛藤義勝理事、川村将弘理事、臼井信男理事、小島憲明理事</p>

8. 評議員会

評議員会の開催状況（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

議 事	内 容
平成18年5月26日 1. 諮問事項 1) 平成17年度決算について 2) 慈恵青戸看護専門学校閉校の件 3) 平成17年度事業報告 2. 報告事項 1) 平成17年度中において制定・改定・廃止となつた規程類（項目）の件 2) 平成18年度事業計画 3) その他	3. その他
平成19年3月6日 1. 役員選任報告 2. 諮問事項 1) 平成19年役員人事 第7条監事の選任 2) 平成19年度予算の件 3) 社団法人東京慈恵会との覚書更改の件 3. 報告事項 1) 学事報告	2) 医学部看護学科募集定員変更の件 3) 寄附講座に関する規定の件 4) 慈恵大学病院再整備プロジェクトの件 5) オーダリングシステム導入の件 6) 第三病院道路拡幅に関わる土地売却の件 7) 商標登録の件 8) その他 4. その他

9. 監査室報告

平成18年4月1日付で寄附行為関連規則「監事職務執行規則」が施行されたことに伴い、「監事の業務補助」を監査室業務として新たに加えた。

平成18年度は「公的補助金の監査」を中心に監査を実施した。内部統制システムの整備に関しては「監査基準」となる公的補助金の事務取扱及び関連規程を監査し、その改善について提案した。

監査室から大学監事及び監査法人への監査報告と打合せは年2回実施した。

1) 平成18年度に実施した監査

- (1) 平成17年度分経常費補助金
- (2) 平成17年度分文部科学省科学研究費補助金
- (3) 平成17年度分厚生労働科学研究費補助金
- (4) 平成17年度分その他国庫補助金、地方公共団体補助金
- (5) その他

II. 東京慈恵会医科大学

1. 教授、その他の人事（平成18年4月～平成19年3月）

1) 平成19年3月31日付退任教授

氏名	旧担当	現在
高津光洋	法医学	名誉教授の称号を贈る
益田昭吾	微生物学第2	名誉教授の称号を贈る
清水英佑	環境保健医学	名誉教授の称号を贈る
石川博	解剖学第2	名誉教授の称号を贈る
北原健二	眼科学	名誉教授の称号を贈る
宮野佐年	リハビリテーション医学	客員教授の称号を贈る
望月正武	内科学	客員教授の称号を贈る
穴澤貞夫	外科学	客員教授任命（但し、看護学科特任教授在任中）
永山和男	内科学	
田邊晴康	歯科	

2) 新任教授

氏名	担当	就任年月日	経歴	備考
小澤隆一	人文科学研究室	平18.4.1	平成2年一橋大院卒	静岡大学教授より
福山隆夫	社会科学研究室	平18.4.1	昭和59年早大院卒	青森大学教授より
銭谷幹男	総合健診・予防医学センター	平18.4.1	昭和50年本学卒	内科学助教授より
伊坪真理子	教育センター	平18.4.1	昭和49年本学卒	内科学助教授より
佐々木寛	産婦人科学	平18.4.1	昭和50年本学卒	産婦人科学助教授より
大木隆生	外科学	平18.4.1	昭和62年本学卒	アインシュタイン医科大学教授より
丸毛啓史	整形外科学	平18.4.1	昭和56年本学卒	整形外科学助教授より
横山淳一	内科学	平18.6.1	昭和48年千葉大卒	内科学助教授より
内田賢	外科学	平18.8.1	昭和48年本学卒	外科学助教授より
相羽恵介	内科学	平18.9.1	昭和52年本学卒	内科学助教授より
谷口郁夫	内科学	平19.1.1	昭和52年本学卒	内科学助教授より
井田博幸	小児科学	平19.2.1	昭和56年本学卒	小児科学助教授より
小山勉	救急医学	平19.3.1	昭和51年本学卒	救急医学助教授より

3) 新任客員教授

氏名	所属	就任年月日	備考
中澤誠	小児科学	平18.4.1	東京女子医大教授
石川眞一郎	内科学	平18.6.1	町立津南病院長
木下牧子	大学直属	平18.10.1	初台リハビリテーション病院長
丸山浩一	大学直属	平18.10.1	東京都児童相談センター所長
Robert Desnick	総合母子健康医学センター	平19.2.1	Mount Sinai 医科大学臨床遺伝講座 教授

4) 特任教授

氏 名	所 属	就任年月日	備 考
山 田 尚	DNA 医学研究所	平18. 6. 1	特任期間：平成18年 6 月 1 日～ 平成20年 5 月31日
鈴 木 政 登	臨床検査医学	平18.11. 1	特任期間：平成18年11月 1 日～ 平成20年10月31日
檜 垣 恵	総合医学研究センター D D S 研究所	平18. 1. 1	特任期間継続：平成19年 1 月 1 日～ 平成20年12月31日
村 山 雄 一	脳神経外科学	平16. 1. 1	特任期間継続：平成19年 1 月 1 日～ 平成21年12月31日

5) 叙位・叙勲

宮 原 正	従五位	平成18年 7 月19日
新 井 達 太	瑞宝小綬章	平成18年11月 3 日
名 取 禮 二	従三位	平成18年11月20日
竹 村 望	正五位	平成19年 1 月19日

6) 訃 報

大 森 義 仁	客員教授	平成18年 6 月 3 日	逝去
宮 原 正	名誉教授	平成18年 7 月19日	逝去
上 野 博 嗣	客員教授	平成18年 9 月 9 日	逝去
高 橋 宣 胖	客員教授	平成18年11月15日	逝去
名 取 禮 二	名誉教授	平成18年11月20日	逝去
竹 村 望	名誉教授	平成19年 1 月19日	逝去
内 田 豊	元教授	平成19年 3 月 4 日	逝去

2. 教職員数

1) 教員数（平成19年4月現在）

① 医学科

専任教員	1,073名	その他教員	1,249名
(内訳) 本学を本務とする者	1,044名	(内訳) 本学を本務とする者	119名
(内レジデント108名)		(内レジデント97名)	
日本クラブ診療所派遣中	3名	関連病院派遣中	575名
留学中	16名	留学中	52名
休職中	10名	上記以外を本務とする者	466名
		休職中	37名

② 看護学科

専任教員 30名

2) 初期臨床研修医数（平成19年4月現在）

1年	本院	36名	2年	本院	31名
	〃 歯科	2名		〃 歯科	2名
	青戸病院	9名		青戸病院	7名
	第三病院	23名		第三病院	22名
	柏病院	22名		柏病院	26名
	合計	92名		合計	88名
				総合計	180名

3) 職員数（看護師を含む）（平成19年4月現在）

大学	*	257名
本院	**	1,580名
青戸病院	***	568名
第三病院	***	818名
柏病院	***	862名
計		4,085名

常勤職員のみ（長期非稼働者を除く）

* 法人事務局、医学科国領校、看護学科、慈恵看護専門学校を含む。

** 晴海トリトンクリニックを含む。

*** それぞれ看護専門学校を含む。

4) 看護師数（平成19年4月1日現在）

	正 看	准 看	その他*	計
本院	992名	3名	88名	1,083名
青戸病院	339名	6名	44名	389名
第三病院	524名	2名	41名	567名
柏病院	547名	0名	72名	619名
計	2,402名	11名	245名	2,658名

* 事務員（看護部所属）、看護補助員、診療補助員、保育士

3. 教 育

1) 医学部医学科学生数など（平成19年4月現在）

(1) 学生数および各学年担当教学委員

学年	人員	内 訳		学年担当教学委員	学 生 保 健 指 導 委 員 会
		男	女		
1	103	82	21	福山 隆夫 教授	委員長 福田 国彦 教授 副委員長 田井 久量 准教授 委 員 石井 健夫 助 教（1年担当・内科） 三枝 裕和 助 教（ " ・放射線） 中村 敬 准教授（ " ・精神） 吉田 哲 講 師（2年担当・内科） 横田 邦信 准教授（3年担当・内科） 木下 陽 助 教（4年担当・内科） 渡辺 文時 講 師（5年担当・内科） 宇都宮保典 講 師（6年担当・内科） 中山 和彦 教 授（2～6年担当・精神）
2	98	78	20	大川 清 教授	
3	106	68	38	羽野 寛 教授（8月迄） 柳澤 裕之 教授（9月以降）	
4	105	71	34	小川 武希 教授	
5	104	67	37	阿部 俊昭 教授	
6	100	73	27	吉村 道博 教授	
計	616	439	177		

（国領校：103名 西新橋校：513名）

(2) 教学委員長・学生部長

学事部長

・教学委員長	田嶋 尚子 教授
・副教学委員長	渡辺 直熙 教授
〃	寺坂 治 教授
・学生部長	中川 秀己 教授
・副学生部長	羽野 寛 教授
〃	福山 隆夫 教授
・学事部長	高橋実貴雄

2) 医学部看護学科学生数など（平成19年4月現在）

(1) 学生数および学年担当委員など

学年	人員	内 訳		学 年 担 当 委 員 等
		男	女	
1	42	1	41	委 員 伊藤 文之 教 授（保健指導担当）
2	37	0	37	〃 菊池麻由美 講 師（1年担当）
3	37	0	37	〃 伊達久美子 准教授（2年担当）
4	34	1	33	〃 長 佳代 講 師（3年担当）
計	150	2	148	〃 佐藤 正子 准教授（4年担当）

(2) 教学委員長・学生部長・学事課長

・教学委員長	奥山 則子 教授
・学生部長	茅島 江子 教授
・学事課長補佐	河村 稔明

4. 研究

1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会

- (1) 教育研究助成委員会は、教育と研究の向上を図るため、これにかかわる大学予算の配分、文部科学省科学研究費補助金をはじめとする各種財団等からの補助・助成についての対応を審議している。平成18年度の委員会は、委員長：渡辺直熙、委員：大川清、橋本和弘、福田国彦、寺坂治、池邊敏子の各教授と高木敬三専務理事で構成された。
 - ① 平成18年度における文部科学省科学研究費補助金の採択件数は122件、総額235,990千円、また、厚生労働科学研究費補助金（農林水産省事業費含む）については、採択後大学管理で経理事務を行なった主任研究者および分担研究者は合わせて45件、総額265,166千円、学外各種財団等からの研究補助・助成金は38件、総額67,544千円であった。
 - ② 文部科学省科学研究費補助金に関する物品の納品検査の実施
 - ・文部科学省通知「科学研究費補助金の適正な執行管理の徹底について」に基づいて各部署に物品購入の納品検査を実施する検収担当者を大学が任命するとともに納品検査は研究代表者が責任をもって実施するよう周知した。
 - ・納品確認は、検収担当者と研究代表者の2名の納品書へのサインによることとした。
 - ③ 平成19年度教育研究経費予算申請案の決定
 - ④ 文部科学省研究設備費及び慈恵大学一般研究設備費による機器選定
 - ⑤ 東京慈恵会医科大学学術図書出版助成選定
 - ⑥ 各種財団研究助成選考
- (2) 大型プロジェクト対策委員会は、全学の研究体制の整備拡充と研究活動の活性化のため、本学がとるべき適切な方策（総合医科学研究センター各研究施設の充実、大型研究設備設置、大型研究プロジェクトの選定等）を審議している。平成18年度は、文部科学省科学技術振興調整費のプロジェクト事業の応募要望があり、申請について審議をした。平成18年度の委員会は、委員長：渡辺直熙教授、委員：馬詰良樹、阿部俊昭、森山寛、田尻久雄の各教授と高木敬三専務理事で構成された。
- (3) 発明委員会は、本学が関係する発明と特許について審議している。平成18年度は、企業との特許共同出願契約が1件、既共同出願済特許の審査請求要否審議が2件、出願審査請求完了が2件あった。なお、外国へ共同出願している特許は4件となっている。

2) 総合医科学研究センター

総合医科学研究センターは、西新橋キャンパスの大学1号館に設置されているDNA医学研究所・GMP対応施設・DDS研究所、第三病院敷地内にある高次元医用画像工学研究所並びに柏病院にある臨床医学研究所等大規模な研究部門のほか、より専門性の高い研究を推進している神経科学研究部・神経病理学研究室・神経生理学研究室、医用エンジニアリング研究室、薬物治療学研究室、臨床研究開発室の5研究室により構成されている。

各研究室とも先端的な研究を積極的に展開しており、これらの研究活動の成果が医療に還元されることが大いに期待される。

平成18年度の各研究室の活動状況は以下のとおりである。

(1) 神経科学研究部・神経病理学研究室

当研究室は、神経疾患の病態におけるユビキチンファミリーの制御機構の解明を柱とした研究活動を行っている。ライソゾーム病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、神経核内封入体病、ポリグルタミン病の疾患脳およびそれらのモデル動物・細胞を対象とし、組織形態学および分子細胞学的に、病態関連物質の細胞内輸送・局在化・分別シグナル、エンドサイトーシスなどを詳細に検討している。また、平成18年度には、日本国内には数少ない、プリオン病組織診断専用のバイオセーフティレベル2の病理組織標本作製室を大学2号館地下1階に設置し、安全管理に十分配慮した環境で、プリオン病の診断および研究を積極的に行っている。

(2) 神経科学研究部・神経生理学研究室

平成18年度は、室長・加藤総夫教授のほか、日本学術振興会博士研究員、本学ポスドクトラルフェロー、本学大学院生3名および他学大学院生4名を中心に研究活動を進めた。主として「生きた」脳スライス標本を用い、パッチクランプによるシナプス電流記録法、細胞内イオン濃度動態イメージング法、およびレーザー照射による局所的生理活性物質投与方法などの最先端の手法を駆使して、シナプス伝達や細胞興奮のダイナミクスを解析し、神経系の機能に関する未解決の問題に立ち向かっている。

主な研究課題として、①脳内シナプスにおけるアストロサイトとニューロン間の機能的連関機構の解明、②イン・ビホ動物におけるRNA干渉法を用いた脳内神経回路におけるシナプス前神経伝達物質放出分子の機能解明、③慢性疼痛にともなう情動神経機構におけるシナプス伝達可塑性の分子基盤の解明、④運動神経変形疾患における選択的運動神経細胞死機構の解明、および⑤麻酔薬の麻酔作用の分子機構の解明などの研究テーマに挑み国際的一流誌に成果を報告した。本学における神経生理学の講義を担当し、大学院では細胞・統合神経科学の細目の教育を担当した。

(3) 医用エンジニアリング研究室

医用エンジニアリング研究室では平成18年度も医用超音波技術を中心にした新しい診断・治療法を研究開発し、臨床現場へ還元する研究を実施した。特に低侵襲治療技術として経頭蓋超音波脳血栓溶解法の研究開発を厚生労働科学研究費補助金を得て推進し、急性虚血性脳卒中中の超急性期治療における血栓溶解剤併用の新治療法を実現しつつある。また、病的血管に対する低周波超音波の安全性確認、頭部CT、MRIと超音波像の画像統合化法そして患者適合性などについて学内外の協力を得て実施した。また超音波DDS技術として、Image Based DDSによる低侵襲がん腫瘍退縮法の研究をNEDO(F/S)の支援を得て開始した。これは相変化ナノ粒子を活用するもので、ナノメディシン実現の一翼を荷うものである。この他、血管内皮細胞からのNO産生の研究も行い、研究室の主題である分子医工学の観点から循環、代謝、腫瘍等に関するナノ治療技術に的を絞った研究事業を実施している。

(4) 薬物治療学研究室

薬物治療学研究室は人を対象とした臨床薬理学的研究を行っている。薬の効く人、効かない人、副作用のでる人、でない人の研究は21世紀の医学の最重要テーマの一つである。薬物代謝酵素を中心とする薬剤反応性遺伝子の研究を離島住民を対象に行っている。インスリン抵抗性と高血圧との関係は長年の研究テーマである。従来は降圧薬のインスリン抵抗性に対する影響という、surrogate markerについて検討してきた。その後、降圧療法のtrue endpointである心血管イベントに対する効果を、カルシウム拮抗薬といずれの系統の降圧薬との併用が望ましいかを検討する大規模臨床試験のパイロットスタディを行った。

臨床研究の他、レギュラトリーサイエンスの研究として、GCPの運用と治験の倫理的・科学的な質の向上に関する検討を行い、わが国の治験レベルが向上するよう政策提言をしている。

研究課題

- ① 薬剤反応性遺伝子
- ② 至適併用降圧療法に関する研究
- ③ 降圧薬のインスリン感受性におよぼす影響
- ④ レギュラトリーサイエンスに関する研究

(5) 臨床研究開発室

臨床研究開発室の使命は、各臨床部門と協力して臨床エビデンスを世界に発信し、医療の進歩に貢献することにある。さらに、臨床エビデンスを予防医学および危機管理に関する政策に反映し、人々の健康と尊い命を守ることにより社会貢献する。

使命を遂行するための戦略として、Ⅰ. プロジェクトに基づく相談(直接支援)、Ⅱ. 疫学・生物統計学の教育(間接支援)：学内外の学生、研究者、製薬企業等を対象に年間50時

間前後、Ⅲ. 独自の疫学研究、Ⅳ. 臨床エビデンスの政策への反映に関する啓蒙活動、がある。

- I. 44編の英語論文を誌上発表（Impact factor 総計：82.5）
- II. 2001年からスタートして、本年度は7年目にあたる。毎年約80名が参加
- Ⅲ. 臍帯血研究、双胎研究、癌分子診断
- Ⅳ. 内閣官房危機管理監アドバイザー、内閣官房安全保障・危機管理室講師、G8法疫学ワークショップ参加

5. 診 療

1) 病院概況

(1) 本 院（院長：森山寛、副院長：細谷龍男、落合和徳、橋本和弘、小路美喜子、事務部長：今出進章）

(1) 病床利用状況

平成18年度の病床利用率は稼働床1,042床に対して87.2%（昨年比+0.0）、平均在院日数は、14.1日（昨年比-0.9日）であった。

(2) 患者紹介率

平成18年度の紹介率は年間平均で医療法51.5%（昨年比-0.7）、保険法45.6%（昨年比-2.18）であった。

(3) 初期臨床研修

平成18年度採用者は医科30名（内訳：本学卒18名、他学卒12名）、歯科3名の計33名であった。その内、医科、歯科の各1名が健康上の理由等から研修中断（退職）となった。

(4) 行政監査・指導・検査

- ① 平成18年度立入検査（平成18年10月18日）
- ② 医療法第25条第3項による特定機能病院の立入検査（平成18年10月18日）
- ③ 精神病院等実地指導（平成18年12月20日）

(5) 当院で1例目の生体肝移植が実施された。（平成19年2月9日）

(6) 先進医療

① 新規認可

- 「画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術」（平成18年8月31日付）
- 「実物大臓器立体モデルによる手術計画」（平成18年10月31日付）
- 「超音波骨折治療法」（平成19年3月20日付）

② 診療報酬改定により保険収載へ変更

- 「臓器限局性前立腺癌に対する腹腔鏡下根治的前立腺摘除術」（平成18年4月1日付）

(7) 臨床研究、保険適用外診療（平成18年度審査状況）

認可件数：新規申請75件、変更申請（期間延長など）45件

(8) 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業

平成18年6月1日、平成19年2月22日に、それぞれ他大学病院での死亡例について、当院での解剖が実施された。

(9) 病院改修（外来改修等）について

- ① 外来棟（A棟）エレベーター到着表示灯設置工事（平成18年5月）
- ② サイン工事
 1. 外来サイン工事（平成18年5月）
 2. 管理棟脇「慈恵医大病院」の案内看板設置工事（平成18年7月）
- ③ 血液浄化部移転に伴うE棟6階改修工事（平成18年6月）
- ④ 外来棟スターバックス出店工事（平成18年8月）
- ⑤ 画像診断部関係

1. 外来棟 X線 TV 更新工事（骨塩定量検査室移転含む）（平成18年 6 月）
 2. 外来棟No.6 室 CT を16列 CT に更新（平成18年 8 月）
 3. 外来棟No.7 室 CT を 2 管球 CT に更新（平成18年 9 月）
 4. 外来棟画像診断部超音波検査室改修工事（平成18年10月）
 5. 外来棟画像診断部No.15室 MR 更新工事（平成19年 3 月）
 6. 中央棟 3 階手術室移動型外科用 X線装置新設（平成19年 3 月）
 - ⑥ 医療ガス設備定期整備工事（平成18年12月）
 - ⑦ 院内各所防犯カメラ設置工事（平成18年12月）
 - ⑧ ペインクリニック医師控室設置工事（平成19年 2 月完了）
 - ⑨ ポケットベル・サービス打ち切りに伴う PHS への変更並びに PHS 電波不感帯へのアンテナ設置工事（平成19年 3 月）
 - ⑩ 中央棟手術部での手術画像を大学 1 号館講堂への転送システム構築工事（平成18年 7 月）
- (10) 医療安全管理
- ① 医療安全推進室定例ミーティング（SMART FORCE）を毎週月曜日に定期開催した。
 - ② 全ての教職員や委託職員に対し、携帯版リスクマネジメントマニュアルを配布した。（平成18年 4 月 1 日）
 - ③ 「医療安全推進週間」を実施した。（平成18年11月 5 日～25日）
 - ④ 私立医科大学病院医療安全推進連絡会議の事務局業務を担当した。東京地区の私立医大病院間の相互ラウンドの実施、医療事故等の公表基準や異状死の届出等について検討した。
 - ⑤ 医療安全に関わる新たな基準を運用した。主な基準は下記の通り。
 - ・インスリン・スライディングスケール伝票の標準化と低血糖時対応マニュアルの制定（平成18年 5 月）
 - ・脊椎造影剤施行マニュアルの制定（平成18年10月）
 - ・術中・術後の体内遺残防止策として手術室での胸・腹部 X線撮影を開始（平成18年12 月）
 - ・小児鎮静マニュアル（病棟・外来）の制定（平成19年 1 月）
 - ・皮膚レーザー治療プロトコルの改訂（平成19年 3 月）
 - ・複数ルート挿入時の誤接続防止識別テープの運用（平成19年 3 月）
 - ⑥ 医療安全管理室の名称を医療安全推進室に変更した。（平成18年 7 月 1 日）
 - ⑦ 慈恵大学インターネットホームページに「より安全な医療の推進」として医療安全に関わる情報を掲載した（平成19年 3 月）
- (11) 院内感染対策
- ① ICU、PICU、NICU 病棟の定期的ラウンドを実施した。
 - ② 昨年度に引き続き、SSI（手術部位感染）サーベイランスを実施した。
 - ③ 4 病院合同感染対策に係る医療安全緊急会議を開催した。（平成19年 3 月 6 日）
- (12) エイズ拠点病院として、エイズ拠点病院運営協議会に該当医師（感染制御部等）が出席、診療体制の充実・強化を図った。
- (13) 緊急連絡方法のための医療用 PHS を全医師（有給者）、医局、各部署に配布した。（平成19年 3 月22日）
- (14) 保険関係承認・届出関係
- ① 診療報酬改定に伴う施設基準の届出を行なった。（平成18年 5 月13日）
新設の 7 対 1 入院基本料を 4 月より算定した。
 - ② 特定集中治療室管理料加算（平成18年 5 月 1 日）※PICU 2 床増床に伴い届出
 - ③ 遠隔画像診断（平成18年 5 月 1 日）
 - ④ 重症者等療養環境特別加算（平成18年 7 月 1 日）※血液浄化部移転に伴い届出
 - ⑤ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算届出（平成18年11月 1 日）

- ⑥ 【辞退届】顎口腔機能診断料（平成18年4月1日付辞退）
- (15) 患者支援・医療連携センターを設置した。（平成18年4月1日）
患者中心の医療をさらにスムーズにかつ積極的に推進することを目的として、在宅療養指導室、ソーシャルワーカー室、医療連携室、外来予約案内係を統合した。主な活動内容は下記の通りである。
- ① 長期入院患者の転院・在宅への推進
 - ② 病病・病診連携の強化推進
 - ③ 4病院の役割・機能分担、連携の強化
- (16) 診療体制の整備
- ① 救急科を開設した。（平成18年4月1日）
 - ② 小児心臓外科部門を総合母子健康医療センター内に開設した。（平成18年4月1日）
 - ③ 血液浄化部移転に伴う病棟移転（6E病棟、10E病棟）を行なった。
（平成18年6月17日）
 - ④ 漢方外来を総合診療部の専門外来として開設した。（平成18年11月11日）
 - ⑤ 超音波検査室の名称を超音波診断センターに変更した。（平成19年1月9日）
 - ⑥ 診療録と看護日誌の記載一元化を開始した。（平成19年3月1日）
- (17) 患者サービス
- ① 外来棟1階にコーヒーショップ（スターバックス）を設置した。（平成18年8月21日）
 - ② 入院患者向けフロアコンサート
 1. 日時：平成18年12月6日（木）午後4時～5時 演者：原田真二さん（歌手）
 2. 日時：平成18年12月9日（土）午後4時30分～5時30分 演者：本学合唱部
 3. 日時：平成19年2月17日（土）午後4時00分～5時00分 演者：当院看護師と有志
 - ③ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第7号（平成18年4月）第8号（平成18年7月）第9号（平成18年10月）第10号（平成19年1月）を発刊した。
 - ④ 「愛宕山みんなの健康教室」を開催した。※NHK放送博物館と共催
第8回（平成18年9月26日～29日）、第9回（平成19年3月3日）
- (18) 講演会、シンポジウムの開催について
- ① 4病院合同リスクマネジメントシンポジウム（合計3回開催）
 1. 日 時：平成18年7月4日（金）18：00～19：30 テレビ会議システム
テーマ：『周術期の深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症の予防と対策』（青戸主催）
 2. 日 時：平成18年11月6日（月）18：00～19：30 テレビ会議システム
テーマ：医療安全を発展的に再生産させる組織
講演者：横浜市立大学医学部医療安全管理学 橋本 勉夫 教授
 3. 日 時：平成19年3月7日（水）18：00～19：30 テレビ会議システム
テーマ：リスクを減らす私達の工夫（第三病院主催）
 - ② リスクマネジメント基礎研修会
 - 日 時：第1回 平成18年4月11日（火）第2回 5月22日（月）
第3回 平成18年10月26日（木）17：30～18：30
テーマ：リスクマネジメント総論、携帯版リスクマネジメントマニュアルについて
 - ③ リスクマネジメントセミナー
 1. 日 時：5月31日（水）午後5時30分～午後7時
テーマ：『術野消毒と手洗い』
 2. 日 時：9月29日（金）午後5時30分～午後6時30分
テーマ：クレームの防止と発生時の対応
 3. 日 時：平成19年1月26日（金）午後6時～午後8時
テーマ：適切な保険請求とリスクマネジメント
 4. 日 時：平成19年2月20日（火）午後5時30分～午後6時30分

テーマ：医療安全のピットホール（落とし穴）

④ 医療安全教育ワークショップ

日 時：平成18年 4月15日（土）、平成18年 8月19日（土）、平成18年 9月16日（土）
平成19年 1月13日（土）

⑤ 医療機器安全使用のための講習会（延べ17回開催）

⑥ 医療安全ワークショップ

日 時：平成18年11月21日（火）午後 6時～午後 8時

テーマ：医療安全へのシステム工学アプローチ 演者：東京大学工学部飯塚悦功教授
分析手法 POAM の概略説明 演者：早稲田大学理工学部棟近雅彦教授
各病院の事例分析報告と講評

⑦ 4病院合同慈恵医大褥瘡セミナー（第5回）

日 時：平成18年11月 7日（火）18：00 於大学1号館講堂

講 師：市岡 滋 助教授（埼玉医科大学形成外科）

(19) 慈恵 ICLS コース、慈恵 BLS コース

① 心肺停止患者に対する適切な救急蘇生の手技教育「慈恵 ICLS コース」を年間 9 回開催した。

② 初期心肺蘇生術の講習会「慈恵 BLS コース」を年間22回開催した。

(20) 鏡視下手術トレーニングコース

鏡視下手術を行う外科系医師の育成、認定を行う独自の制度である鏡視下手術トレーニングコース認定試験を実施した。（STEP 1 計 4 回、STEP 2 計 4 回）

(21) 東京消防庁から救急救命士の気管挿管における病院実習の依頼があり、1名の受け入れを行った。（平成18年 5月～7月）

(22) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。献血者94名（申込者数141名）
（平成19年 2月 6日）

(23) 入院患者見舞い来院者への面会バッジの運用を開始した。（平成18年12月25日）

(24) 総合健診・予防医学センター（センター長：銭谷幹男 所長：和田高士）

健康医学センターの名称を総合健診・予防医学センターに改称し、センター長には診療部長として銭谷幹男教授を任命した。併せて、新橋健診センター、晴海健診センターを設置し、それぞれの所長には診療副部長として、和田高士助教授、阪本要一教授を任命した。
（平成18年 7月 1日）

(25) 慈恵医大晴海トリトクリニック（所長：阪本要一）

平成18年度の患者数実績は、1日平均外来患者数146.3人（昨年比+5.8人）、健診は23.8人（昨年比+1.9人）である。

(2) 青戸病院（院長：臼井信男、副院長：伊藤 洋、吉田和彦、事務部長：丹羽克巳）

(1) 平成18年度の病床利用率は使用床375床に対して85.9%、平均在院日数は14.1日であった。

(2) 平成18年度の患者紹介率は医療法で43.8%、保険法で41.7%であった。

(3) 平成18年 4月17日～22日の期間、適正医療推進週間とした。

(4) 平成18年 5月23日、学内横断的タスクフォース報告会を開催した。

(5) 平成18年 6月24日、フロアコンサートを開催した。

(6) 平成18年 6月14日、厚生労働省に DPC 準備病院の届け出を行った。

(7) 平成18年 7月11日、青戸病院リニューアルタスクフォースのキックオフミーティングを開催した。

(8) 平成18年 9月12日、青戸病院リニューアルタスクフォースの中間報告会が開催した。

(9) 平成18年 9月15日、本田消防署管内での自衛消防隊訓練審査会が開催され、青戸病院隊は準優勝した。

(10) 平成18年10月から、外科系救急当番医制度の運用を開始した。

- (11) 平成18年10月14日、フロアコンサートを開催した。
- (12) 平成18年11月11日、大規模災害を想定したトリアージ訓練を開催した。
- (13) 平成18年12月1日、本田・金町消防署との救急業務連絡会を開催した。
- (14) 平成18年12月2日、フロアコンサートを開催した。
- (15) 平成18年12月21日、東京都福祉保健局指導室による生活保護指定医療機関に対する立ち入り検査があった。
- (16) 平成19年1月10日、東京都福祉保健局医療政策部医療安全課による放射線施設の立ち入り検査があった。
- (17) 平成19年1月13日、教職員有志によるフロアコンサートを開催した。
- (18) 平成19年1月23日、青戸病院リニューアルTF・テーマ別ワーキンググループのキックオフミーティングを開催した。
- (19) 平成19年2月10日・11日に青戸病院リニューアルTF・テーマ別WGの合宿集中検討会を開催した。
- (20) 平成19年3月10日、教職員有志によるフロアコンサートを開催した。
- (21) 平成19年3月12日、青戸中学校で3年生を対象としたBLS+AED講習会を開催した。
- (22) 成医会青戸支部例会開催
 - 平成18年6月17日(土) 第96回青戸支部例会
 - 平成18年12月16日(土) 第97回青戸支部例会
- (23) 青戸病院公開カンファレンス開催
 - ① 第6回 平成18年4月26日(水) 担当科：消化器・肝臓内科、外科
 - ② 第7回 平成18年7月19日(水) 担当科：腎・高血圧内科、泌尿器科
 - ③ 第8回 平成18年11月1日(水) 担当科：呼吸器内科、外科
 - ④ 第9回 平成19年2月21日(水) 担当科：神経内科、脳神経外科
- (24) 青戸病院公開健康セミナー
 - ① 第19回 平成18年6月3日(土) 「これでいいのか？あなたの生活習慣」
 - ② 第20回 平成18年11月4日(土) 「“痛み”から開放されるさわやかライフ」
- (25) メディカルカンファレンス
 - 第57回 平成18年6月17日(土)
 - 「青戸病院における入院兼科の現状と問題点」
- (26) 症例検討会(CPC)
 - ① 第22回 平成18年5月29日(月) 担当科：総合診療部
「呼吸苦と胸痛で救急来院された86歳女性の一例」
 - ② 第23回 平成18年7月20日(木) 担当科：消化器・肝臓内科
「意識障害で発症し、急激に多臓器不全に陥った72歳男性」
 - ③ 第24回 平成18年10月11日(水) 担当科：泌尿器科
「腎癌術後、転移性再発治療中、イレウスで死亡した一例」
 - ④ 第25回 平成19年1月26日(金) 担当科：神経内科
「上肢脱力・嚥下困難で発症し呼吸不全にて死亡した72歳男性」
 - ⑤ 第26回 平成19年3月19日(月) 担当科：呼吸器内科
「胸部異常陰影精査中、慢性呼吸不全・右心不全にて死亡した一例」
- (27) 保険関係承認事項
 - ① 平成18年12月25日、特掲診療料の施設基準に係る「輸血管理料Ⅱ」の届出を行い受理され、平成19年1月1日付けで算定開始となった。
- (28) 工事関係
 - ① 別館電気室操作盤用バッテリー等交換工事 平成19年3月完了
 - ② 第二堤桜寮ガス給湯器交換工事 平成19年2月完了

(3) 第三病院（院長：坂井春男、副院長：伊藤文之、田井久量、事務部長：文司安彦）

- 平成18年4月1日 PHS 運用開始
平成18年4月22日 公認会計士監査
平成18年5月27日 第三病院医療連携フォーラム
平成18年6月7日 医学教育セミナー TV 会議
平成18年6月9日 狛江・調布・成城救急業務連絡会議
平成18年6月9日 第三病院リスクマネジメントシンポジウム「ヒューマンエラーを防止する―指差し呼称と危険予知―」
平成18年6月13日 日赤献血実施
平成18年6月16日 狛江救急業務連絡協議会定例総会
平成18年6月17日 医療の安全管理と倫理教育ワークショップ
平成18年6月21日 「学内横断的タスク・フォース」活動成果報告会
平成18年6月23日 第37回第三病院医療セミナー「スローエイジングの実現に向けて！」
平成18年6月24日 第23回慈恵医大第三病院公開健康セミナー「白内障の早期発見と治療」
平成18年7月1日 本採用者辞令交付
平成18年7月4日 4病院合同リスクマネジメントシンポジウム
平成18年7月7日 第99回 成医会第三支部例会ポスター発表、特別講演会
平成18年7月8日 第三病院七夕コンサート
平成18年7月21日 第38回第三病院医療セミナー Big debate「第三病院19年度への飛躍のために」
平成18年7月28日 第三病院納涼会
平成18年8月1日 感染制御室設置
平成18年8月1日 感染症・感染対策講習会
平成18年8月31日 狛江市・調布市災害時井戸水使用調印式
平成18年9月5日 災害時応援協定合同締結式
平成18年9月9日 こまえ市民大学講座（知っておきたいくすりの知識／薬剤部 課長 川井龍美）
平成18年9月16日 調布市近隣大学公開講座（ヒトの呼吸とカエルの呼吸／薬理学講座第2 教授 木村直史）
平成18年10月7日 こまえ市民大学講座（脳ドックでわかること／脳神経外科 診療部長 中島真人）
平成18年10月11日 調布市近隣大学公開講座（ストーマ（人工肛門）の管理／外科 教授 穴澤貞夫）
平成18年10月18日 CPR 講習会 TV 会議
平成18年10月25日 森田療法棟消防点検
平成18年11月3日 ホスピタル・フェア・in jikei 開催
平成18年11月3日 第24回慈恵医大第三病院公開健康セミナー「小児の発熱について」
平成18年11月6日 4病院合同リスクマネジメントシンポジウム TV 会議
平成18年11月7日 慈恵医大褥瘡セミナー TV 会議
平成18年11月8日 調布市近隣大学公開講座（より良き更年期を過ごすために／産婦人科 教授 安田 允）
平成18年11月14日 自衛消防訓練審査会 優秀賞受賞
平成18年11月16日 日赤献血実施
平成18年11月20日 名取禮二名誉学長逝去
平成18年11月21日 4病院合同リスクマネジメントシンポジウム TV 会議
平成18年11月29日 医学教育等関係業務功労者表彰 整備員 竹本正江
平成18年12月1日 第100回 成医会パネル展示・100回記念特別企画

平成18年12月 5 日	第39回医療セミナー「患者はなぜ怒る：クレーム・暴力の対処方法について」
平成18年12月 9 日	クリスマスコンサート
平成18年12月21日	第三病院医療連携フォーラム
平成18年12月22日	名取禮二名誉学長大学葬
平成19年 1 月17日	第三病院リスクマネジメントシンポジウム
平成19年 2 月 6 日	東京都による放射線立入検査
平成19年 2 月23日	第三病院診療部懇親会
平成19年 2 月24日	道路拡幅工事に伴うヒマラヤ杉伐採時停電事故
平成19年 3 月 3 日	第25回慈恵医大第三病院公開健康セミナー「食べるリハビリテーション」
平成19年 3 月 7 日	4 病院合同リスクマネジメントシンポジウム TV 会議
平成19年 3 月 8 日	第40回医療セミナー「がんの早期発見に向けた検診システムの現状と展望」
平成19年 3 月 9 日	未登録・放置自転車撤去
平成19年 3 月13日	総合防災訓練
平成19年 3 月31日	研修医研修終了式

(4) 柏 病 院（院長：久保政勝、副院長：小林進、清水光行、内田満 事務部長：須賀一元）

- 1) 平成18年度の一日平均入院患者数は530名で病床利用率は使用床598床に対して88.8%、1人平均在院日数は15.3日であった。
- 2) 平成18年 4 月 1 日 千葉県社会保険事務局へ医療費改訂に伴う各種届出を行った。また、看護加算10対1及び脳血管疾患等リハビリⅡの算定を開始した。
- 3) 平成18年 4 月 1 日 脳ドックが運用開始となった。
- 4) 平成18年 5 月17日 第20回柏病院 CPC を開催した。
- 5) 平成18年 6 月 1 日 看護加算 7 対 1 及び脳血管疾患等リハビリⅠの算定を開始した。
- 6) 平成18年 6 月 7 日 救急部及び循環器内科の医師を対象にポケベルから PHS へ試験的運用を開始し、7 月より全部署が PHS に変更となった。
- 7) 平成18年 6 月10日 第 8 回地域医療連携フォーラムを開催した。
- 8) 平成18年 7 月 1 日 64列の CT が稼動開始した。
- 9) 平成18年 7 月 1 日 第34回成医会柏支部例会を開催した。
- 10) 平成18年 7 月12日 第19回フローコンサートを開催した。
- 11) 平成18年 7 月25日 第19回納涼盆踊り大会を開催した。
- 12) 平成18年 8 月 1 日 HCU 管理料（4床）の算定を辞退し、一般床へ変更したことに伴い稼動床が594床から598床へ変更となった。
- 13) 平成18年 8 月31日 救急事故現場への医師派遣に関する協定を柏市と締結した。
- 14) 平成18年 9 月29日 第 5 回柏市自衛消防隊競技会が開催された。
- 15) 平成18年 9 月30日 小児科外来待合スペースにキッズプレイコーナーを設置した。
- 16) 平成18年10月 1 日 産科入院料を 1 日3,000円増額した。
- 17) 平成18年10月 7 日 第 9 回地域医療連携フォーラム・市民公開講座が開催された。
- 18) 平成18年10月12日 千葉県柏保健所による医療監視が行われた。
- 19) 平成18年11月 1 日 外科外来においてストーマ外来を開設した。
- 20) 平成18年12月 2 日 第35回成医会柏支部例会を開催した。
- 21) 平成18年12月12日 開院20周年記念植樹を行った。
- 22) 平成18年12月19日 第20回フローコンサートを開催した。
- 23) 平成19年 1 月 5 日 患者サービスの一環として、C棟各階エレベーターホールに飲料水の自販機を設置した。また、1階エントランスホールに患者さま用のインターネットパソコンを設置した。

- 24) 平成19年 1月23日 第1回大規模災害トリアージ訓練を実施した。
- 25) 平成19年 3月 5日 診療予約変更案内室が開設された。
- 26) 平成19年 3月 7日 入退院窓口においても、初診受付同様に待ち番号表示システムの運用を開始した。
- 27) 平成19年 3月10日 第3回医療連携懇談会を開催した。
- 28) 平成19年 3月12日 6階の病棟より注射オーダーシステムの運用を開始した。
- 29) 保険関係承認・届出関係
- ① 平成18年 4月 1日 千葉社会保険事務局並びに千葉県柏保健所へリハビリテーション科開設の届出を提出した。
 - ② 平成18年 5月 8日 リハビリテーション施設拡充に伴う用途変更の許可を取得、6月2日より使用許可を得た。
 - ③ 平成18年 7月 3日 本館2階シャワー室・乾燥・洗濯室を指導室へ用途変更の許可を取得、7月21日より使用許可を得た。
 - ④ 平成18年 8月31日 本館1階MRI撮影室の一部をMRI用機械室へ用途変更の許可を取得、11月8日より使用許可を得た。
 - ⑤ 平成19年 2月19日 本館2階輸血採血室の一部を診療予約変更案内室へ用途変更の仕様許可を取得、3月13日より使用許可を得た。
 - ⑥ 平成19年 3月15日 千葉社会保険事務局へ先進医療「超音波骨折治療法」（整形外科）の届出を行った。
- 30) 医療連携関係
- ① 平成18年 5月17日 第20回症例検討会（CPC）「慢性呼吸不全急性増悪にて緊急入院した強皮症の一例」を開催した。
 - ② 平成18年 6月10日 第8回地域医療連携フォーラム市民向け公開健康講座「身近なアレルギー性疾患について考えよう」と題して慈恵柏看護専門学校講堂にて開催した。
 - ③ 平成18年10月 7日 第9回地域医療連携フォーラム市民向け公開健康講座「身近に潜む！メタボリックシンドロームを予防しよう」と題して慈恵柏看護専門学校講堂にて開催した。
 - ④ 平成18年11月22日 第21回症例検討会（CPC）「冠動脈バイパス術後、肺癌及び腹部大動脈瘤手術待機中に腹部大動脈破裂を来した症例」を開催した。
 - ⑤ 平成19年 3月10日 第3回医療連携懇談会「糖尿病患者の地域医療連携への取組み」を開催した。
 - ⑥ 画像診断検査のWebによる予約登録は新たに3施設が追加となり、9施設で実施している。
- 31) 工事関係
- | | |
|--------------------------------|------------|
| ① 構内正面出入口付近アスファルト舗装改修 | 平成18年 5月完了 |
| ② 医療情報室空調換気設備増強 | 平成18年 6月完了 |
| ③ 各階配膳室空調設備設置 | 平成18年 6月完了 |
| ④ 在宅医療指導室設置 | 平成18年 6月完了 |
| ⑤ 第10診療中待合扉及び壁面塗装工事 | 平成18年 8月完了 |
| ⑥ 第2電気室受変電設備開閉器交換工事 | 平成18年10月完了 |
| ⑦ 中央検査部プレハブ冷蔵庫更新 | 平成18年11月完了 |
| ⑧ 医療情報室出入管理システム設置 | 平成18年11月完了 |
| ⑨ 病棟フロー空調設備更新 | 平成18年11月完了 |
| ⑩ 病棟ファンコイル更新 | 平成18年11月完了 |
| ⑪ 救急室非常通報装置及び監視カメラ設置 | 平成18年12月完了 |
| ⑫ ベットパンウォッシャー（本館C棟3階・7階・救急室）設置 | 平成19年 1月完了 |

- ⑬ 診療予約変更案内室設置
- ⑭ 放射線リニアック更新に伴う付帯設備
- ⑮ 看護棟給湯用ボイラー更新
- ⑯ 電気時計設備更新

平成19年 3月完了
 平成19年 3月工事中
 平成19年 3月工事中
 平成19年 3月工事中

32) 病床数および外来患者数

① 病床数（使用床）（平成18年 4月 1日現在）

個		室	55
2	人	室	42
3	人 室 以 上		497
合		計	594
比率（内科系：外科系）			41：59

② 病床数（届出床）（平成18年 4月 1日現在）

個		室	76
2	人	室	64
3	人 室 以 上		500
合		計	640
比率（内科系：外科系）			41：59

33) 1日平均外来患者数（平成18年度）

外 来 患 者 数 1,646

(5) 病床数および外来患者数

(1) 病床数（使用床）

（平成19年4月1日現在）

	本 院	青 戸	第 三	柏	合 計
個 室	290	19	62	55	426
2 人 室	6	14	38	42	100
3 人 室 以 上	746	342	517	501	2,106
合 計	1,042	375	617	598	2,632
比率（内科系：外科系）	42：58	44：56	49：51	36：64	

(2) 病床数（届出床）

（平成19年4月1日現在）

	本 院	青 戸	第 三	柏	合 計
個 室	295	22	71	76	464
2 人 室	6	24	44	64	138
3 人 室 以 上	774	344	523	500	2,141
合 計	1,075	390	638	640	2,743
比率（内科系：外科系）	42：58	44：56	49：51	36：64	

(3) 平成18年度診療実績

（平成18年度）

	本 院	青 戸	第 三	柏	晴海トリトン	合 計
一日平均外来患者数	2,908	1,066	1,481	1,646	146	7,247
一日平均入院患者数	904	322	538	530		2,294
利用率（稼働床）	84.1	85.9	87.1	88.8		86.5
予算達成率	107.9	102.5	102.7	100.3	107.6	104.9
紹介率 医療法	51.5	43.8	38.3	50.5	8.7	
〃 保険法	45.6	41.7	32.3	39.4	3.1	

2) 派遣・関連病院関係

(1) 大学協力病院（5病院）

（平成19年4月1日現在）

	病 院 名	院 長	副 院 長	常勤医数 (慈恵関係者)	病 床 数
1	国立病院機構西埼玉中央病院	竿代 丈夫 (昭45)	池内 健二 (昭57)	38 (24)	350
2	富士市立中央病院	山田 治男 (昭43)	永井 素大 (昭45)	73 (62)	596
3	厚木市立病院	田代和也 (昭51)		50 (48)	356
4	町田市民病院	総院長 山口 洋 (昭36・他学卒) 院長 岩淵 秀一 (昭45)	近藤 直弥 (昭53) 佐藤 裕 (昭53・他学卒)	71 (24)	440
5	東急病院	川村 忠夫 (昭40)	筋野 甫 (昭54)	21 (16)	172

※大学協力病院の指定要件は次の通りである。

- 1) 院長または副院長等の主要ポストが得られること
- 2) 人事などに大学の意向が反映されること

(2) 教室等関連病院 (○印：大学協力病院)

<p>内科学講座</p> <p>○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険大宮総合病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院東京医療センター 東京通信病院</p>	<p>国立がんセンター中央病院 町立津南病院 東京武蔵野病院 古川橋病院 京橋病院 国立病院機構東埼玉病院 横須賀うわまち病院 太田総合病院</p>	<p>神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 国立病院機構相模原病院 埼玉県立小児医療センター 町立津南病院 都立北療育医療センター 社会保険川崎中央病院 都立清瀬小児病院 社会保険浦田総合病院 湘南病院 国立成育医療センター 都立大塚病院 神奈川県立こども医療センター 狭山病院 葛飾赤十字産院 多摩南部地域病院</p>
<p>※消化器・肝臓内科</p> <p>○ 東急病院 国立病院機構相模原病院 虎ノ門病院 都職三楽病院 松下電器東京健康管理センター 専売公社東京病院 衣笠病院 立川中央病院 川口市立医療センター 埼玉慈恵病院 早期胃癌検診協会 松島病院大腸肛門病センター</p>	<p>※糖尿病・代謝・内分泌内科</p> <p>○ 東急病院 川口市立医療センター 松下電器東京健康管理センター 衣笠病院 川崎臨港病院</p>	<p>皮膚科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 国立がんセンター中央病院 東川口病院 社会保険大宮総合病院 東京警察病院 NTT 東日本関東病院</p>
<p>※神経内科</p> <p>川崎臨港病院 国立精神・神経センター武蔵病院 亀田総合病院 兵庫県立高齢者脳機能センター 姫路循環器病センター 国立国際医療センター 日本赤十字社医療センター</p>	<p>※血液・腫瘍内科</p> <p>川口市立医療センター 癌研究会附属病院 衣笠病院</p> <p>※呼吸器内科</p> <p>国立国際医療センター 国立病院機構東京病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 国立がんセンター中央病院</p>	<p>放射線科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 神奈川県立汐見台病院 放射線医学総合研究所 日赤医療センター 大田原赤十字病院 JR 東京総合病院 都職員共済組合青山病院 松下電器東京健康管理センター 癌研究会附属病院 星総合病院 都立荏原病院 東京歯科大学市川総合病院 東京労災病院 立川総合病院 藤沢市民病院 立川中央病院 聖マリアンナ医科大学</p>
<p>※腎臓・高血圧内科</p> <p>○ 東急病院 済生会中央病院 益子病院 中野江古田病院 東京都老人医療センター 川口市立医療センター 沼津市立病院 養生会かしま病院</p>	<p>精神医学</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 栃木県精神保健センター 松下電器東京健康管理センター 越谷吉仲病院 横手興生病院 湘南病院 成増厚生病院 成田病院 総武病院 東条病院 放射線医学総合研究所 西熊谷病院 国立成育医療センター 常心会川室記念病院 栃木県立岡本台病院 豊後荘病院 久喜すずの木病院 高田西城病院 那須高原病院 両毛病院 河津浜病院 芳野病院 光生会平川病院</p>	<p>外科</p> <p>○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 ○ 東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院</p>
<p>※リウマチ・膠原病内科</p> <p>国立病院機構相模原病院</p>	<p>小児科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 神奈川リハビリテーション病院</p>	
<p>※循環器内科</p> <p>○ 東急病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 松下電器東京健康管理センター 衣笠病院 魚沼病院 湘南病院 聖隷三方原病院 大洗海岸病院</p>		

社会保険桜ヶ丘総合病院 社会保険大宮総合病院 癌研究会附属病院 埼玉慈恵病院 湘南病院 川口市立医療センター 総合高津中央病院 賛育会病院 藤村病院 春日部中央総合病院 守谷慶友病院 藤立病院 金町中央病院 青山病院 麻生病院 川崎市立川崎病院 国立成育医療センター 佐々木病院 日比谷病院 第三北品川病院 安田病院 市川第二病院 益子病院 東葛辻仲病院 武蔵野総合病院 行田中央病院 佐倉中央病院	第三北品川病院 都立駒込病院 本島総合病院 心臓外科 ○ 富士市立中央病院 ○ 町田市民病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 埼玉県立小児医療センター 横浜総合病院 都立豊島病院 佐久総合病院 新東京病院 都立清瀬小児病院 産婦人科 ○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険大宮総合病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進担担多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院 泌尿器科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険大宮総合病院 星総合病院 JR 東京総合病院 東京都リハビリテーション病院 平塚共済組合病院 立正佼成会附属佼成病院 眼科 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 ○ 東急病院 神奈川県リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院機構相模原病院 東京労災病院 国立病院東京医療センター 田中農協病院 二本松眼科病院 八潮中央総合病院 衣笠病院	オリビエ眼科 新松戸中央総合病院 耳鼻咽喉科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 東急病院 神奈川県リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 癌研究会附属病院 湘南病院 聖路加国際病院 大森赤十字病院 太田総合病院 岩手県立遠野病院 東京共済病院 東京厚生年金病院 東京歯科大学市川総合病院 都立豊島病院 同愛記念病院 国立がんセンター東病院 東部地域病院 総合病院国保旭中央病院 麻酔科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 ○ 東急病院 川口市立医療センター 国立病院機構宇都宮病院 社会保険大宮総合病院 神奈川県立汐見台病院 東京北社会保険病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター リハビリテーション科 神奈川県リハビリテーション病院 国立病院機構宇都宮病院 聖隷三方原病院 東京通信病院 中伊豆リハビリテーションセンター 都立大塚病院 都立豊島病院 都立墨東病院 とちぎりリハビリテーションセンター 東京都リハビリテーション病院 病理学 ○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 立正佼成会附属佼成病院 国立病院機構千葉東病院 歯科 ○ 町田市民病院 社会保険大宮総合病院 内視鏡科 益子病院
整形外科 ○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 東急病院 神奈川県立汐見台病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 都職員共済組合青山病院 第三北品川病院 とちぎりリハビリテーションセンター 都立豊島病院	脳神経外科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 東大宮病院 秋葉病院 麻生病院 宇都宮第1病院 大森赤十字病院 聖マリアンナ医科大学病院 明徳会佐藤第一病院	形成外科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 東京厚生年金病院

松島クリニック 社会保険中央総合病院	感染制御部	法医学
	神奈川県立汐見台病院	東京都監察医務院

(3) 特殊派遣機関（9 機関）

病 院 名	科 名	病 院 名	科 名
日本航空インターナショナル（羽田）	内 科	日本航空ジャパン	内 科
	精 神 医		精 神 医
	放 射 線 医		眼 科
	眼 科		耳 鼻 咽 喉 科
日本航空インターナショナル（成田）	耳 鼻 咽 喉 科	衆 議 院 診 療 所	内 科
	内 科		皮 膚 科
全 日 空	精 神 医		出版健康保険組合診療所
	内 科	耳 鼻 咽 喉 科	
	整 形 外 科	東京国税局診療所	内 科
	眼 科		精 神 医
航空医学研究センター	耳 鼻 咽 喉 科	社会保険 新宿健診センター	内 科
	内 視 鏡 科		外 科
	内 科		内 科
	精 神 医		外 科
	眼 科		
	耳 鼻 咽 喉 科		

(4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）

病 院 名	科 名
英国 ロンドン 日本クラブ診療所	内 科
	小 児 科

6. 学術情報センター

学術情報センター長 清水 英佑 教授（環境保健医学）（平成11年1月より）
同 図書館国領分館長 櫻井美代子 教授（老年看護学）（平成16年4月より）

1) 平成18年度統計（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

(1) 図書館

① 蔵書冊数	243,286冊		
② 現在受入雑誌数	1,132種	（和721種、洋411種）	
③ オンライン・ジャーナル提供数	約3,700種		
④ 館外貸出冊数	11,144冊		
⑤ 他学との文献相互貸借数	貸出 9,253件	借受	5,018件
⑥ 複写サービス	1,513,435枚		
⑦ 情報検索サービス	57,553件（館内での記帳利用のみ）		

(2) 図書館国領分館

① 蔵書冊数	93,799冊		
② 現在受入雑誌数	378種	（和308種、洋70種）	
③ 館外貸出冊数	5,946冊		

(3) 標本館

① 標本数	マクロ標本	1,732点	
	顕微鏡標本	2,549点	
② 視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,720セット	
	スライド・プログラム	601セット	
	16mm フィルム	37セット	
	コンピュータ・ソフトウェア	18セット	
	語学プログラム	204セット	
	その他	79セット	

(4) 史料室

見学者数 570名（学内 172名、学外398名）

(5) 写真室

① 撮影・スライド制作サービス	96件（2,491枚）
② X線写真複製サービス	398件（3,230枚）
③ ビデオ編集サービス	78件（191.5時間）
④ コンピュータによるスライド作成	30件（1,086枚）
⑤ カラープリント出力サービス	86件（1,119枚）
⑥ 35mm スライド入力サービス	62件（3,933枚）

2) 主な事項

(1) 洋書「基本図書」の選定

教科書類をはじめとする基礎知識を得るための基本図書のうち、図書館において最新版を購入することが望まれる洋図書を細分類について選定を進めた。

(2) 図書館所蔵資料のテーマ別紹介

標記資料を図書館入口にテーマ別に一定期間展示して紹介した。取り上げたテーマは「学会発表・プレゼンテーション」である。

(3) 雑誌収納書庫資料の移動

平成17年度にプリント版の購読を中止した結果生じたスペースを利用して、壁周りなどの並び方が不連続の雑誌が収納できるように、書棚の整理を開始した。

- (4) 購読雑誌タイトルの見直し
 標記見直しのため、外国雑誌の購読に関するアンケート調査を実施した。調査結果を参考に、いくつかのタイトルについては冊子体から電子ジャーナルへの移行をはかった。
- (5) データベースの利用説明会
 データベースの変更や新規導入があったため、それらの利用マニュアルを改訂・作成し、利用説明会を開催した。
- (6) 医学論文書きかた講習会の開催
 Jikeikai Medical Journal 編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催で、平成18年5月19日に岡崎春雄名誉教授（Mayo Clinic）を講師に招き、日本人研究者がどのように英語を学ぶかを米国での長年の研究生生活から講演いただいた。5月22日には「国際学会でのプレゼンテーション・スピーチマナー」として、講師に諏訪邦夫教授（帝京大学）を招いて概論いただき、上園晶一教授（麻酔科学）の司会で、安井豊先生（神経科学部神経生理学研究室、麻酔科学講座）、中田佳延先生（内科学講座循環器内科）、黄義浩先生（心臓外科学講座）、脇山茂樹先生（外科学講座消化管外科）による模擬学会発表を行った。
- (7) 東京慈恵会医科大学『教育・研究年報2005（第25号）』および『Research Activities2005』の編集担当標記各年報の原稿を大学ネットワーク経由で収集し、編集・出版の作業を担当した。
- (8) 図書館入退館システムの導入
 図書館盗難防止装置の更新に伴って、入館者管理機能を備えた新システムを導入した。
- (9) 教材・研究資料の作製支援
 学内教職員、学生、同窓生を対象に、静止画及び動画の撮影サービスをはじめ、アナログ／デジタル写真の作製、各種加工、スライド作製、ビデオ編集サービスを行っている。また35mmスライドをデジタルデータ化するサービスも行っており、パワーポイントファイル作製支援をしている。
- (10) レントゲンフィルムの複製
 教育・研究の資料として、また他病院への診療情報提供、裁判所等への提出資料、病院保管に用いるレントゲンフィルムのコピーを行っている。
- (11) 標本館総合展示の開催
 平成18年度は退任される田辺 晴康教授（歯科）に担当を願い、1週間にわたり教授の研究業績のパネル展示を開催した。
 実施期間：平成18年11月22日（水）～11月28日（火）大学1号館ロビー
 テーマ：「口唇裂・口蓋裂の顎発育と咬合管理」
- (12) 情報技術支援業務
 平成15年度から、学事課・システム課・学術情報センターの職員により情報技術支援業務（テレビ会議等）を継続担当している。

7. 教育センター

教育センターは平成18年4月1日より大学2号館地下1階にて本格的活動を開始した。当センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。10月1日からは、初期臨床研修関係業務が附属病院管理課より業務移管がなされた。

平成18年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として下記事業を実施した。

- 1) 医療安全管理の推進においては、医療の安全教育ワークショップを平成18年度には、本院4回(371名)、青戸病院2回(137名)、第三病院2回(181名)、柏病院2回(166名)合計10回、855名の参加を得て、参加者の感想文を分析して理事会等へ報告を行なった。また、初期臨床研修医には、本ワークショップ参加を研修修了の必須事項としており、医師としての医療安全に対する意識の向上に努めている。その参加者数は平成18年度においては、81名(4病院合計)であった。

また、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、テレビ会議システムを利用して、4附属病院を繋いで、テレビ会議にて4病院リスクマネジメントを年4回(7月、11月2回、3月)支援した。

- 2) 人材育成システムの構築については、教員評価委員会(渡邊 直熙委員長)と連携し当センターが主管している教員評価データベース委員会(福島 統委員長)において、データベース開発を行なっている。

開発においては、個人に焦点をあてた教員評価システムの構築を進める方針のもと、ReaD(独立行政法人科学技術振興機構が管理を行なっている研究開発支援総合ディレクトリで、目的は、産学官連携、研究成果の活用、および研究開発の促進に資することを目的として、国内の大学・公的研究機関等に関する機関情報、研究者情報、研究課題情報、研究資源情報を網羅的に収集・提供しているサイトを指します。)と連携して、教育・研究・臨床・管理運営の4項目について比重の配分を自己申告し、各自の資質・指向を明らかにした上で評価を受けるシステムを構築するために、データ収集項目の洗い出し、及びデータ管理部署との調整をおこなった。

- 3) 広報活動の充実においては、本センターが主管している公開講座推進委員会主導のもと、4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ国の私学助成の経常費補助金を利活用して、青戸病院公開健康セミナー2回(6月、11月)、第三病院公開健康セミナー2回(6月、11月)、地域医療連携フォーラム2回(6月、10月)、他地方公共団体やNHK放送博物館、学会等共催で、公開講座を開催支援した。これらの取り組みについては、大学の公開講座ホームページに掲載し、学内から情報の提供を広く呼びかけ情報発信も行なっている。

また、今年度からは、日本学術振興会が文部科学省の科学研究費補助金にて行われた内容を、中学生・高校生を対象に、研究者がプロデュースする丸1日の体験・実験・講演などを通して、いろいろな疑問に答えるとともに、現在、活躍されている研究者と大学の最先端の研究成果の一端を見る、聞く、触れることで、学術と日常生活との関わりや、科学(学術)がもつ意味に対する理解を深めてもらう機会を提供することを目的としている「ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室~KAKENNHI」の下記2事業に取組み、好評を得た。

- ① 高次元医用画像工学研究所では、小中高の参加者23名で、「からだの中への旅、そして未来の医療への旅」
- ② DNA 医学研究所器官発生研究室では、小中高の参加者26名で、「動物の発生を観てみよう 一遺伝子の働きと動物のからだ作り一」

平成18年度公開講座実績

公開講座名	開催日	参加人数	主催・場所
第19回青戸病院公開健康セミナー 「これでいいのか？ あなたの生活習慣」	2006年6月3日	市民一般 161名	青戸病院 亀有地区センター
第8回地域医療連携フォーラム 「身近なアレルギー性疾患について 考えよう」	2006年6月10日	市民一般 73名	柏病 院
第23回第三病院公開健康セミナー 「白内障の早期発見と治療」	2006年6月24日	市民一般 61名	第 三 病 院
日本老年精神医学会 慈恵医大共同主催 「健やかな老いをめざして」	2006年7月2日	市民一般 320名	柏 ア ミ ュ ゼ 柏
愛宕山みんなの健康教室 「ヘルペスウィルスと皮膚の病気」	2006年9月26日	市民一般 24名	NHK 放送博物館・慈恵医大共催 N H K 放 送 博 物 館
愛宕山みんなの健康教室 「おしっこの出具合と健康」	2006年9月27日	市民一般 22名	NHK 放送博物館・慈恵医大共催 N H K 放 送 博 物 館
愛宕山みんなの健康教室 「今から始められる糖尿病予防」	2006年9月28日	市民一般 18名	NHK 放送博物館・慈恵医大共催 N H K 放 送 博 物 館
愛宕山みんなの健康教室 「メンタルヘルス（心の健康）につ いて」	2006年9月29日	市民一般 23名	NHK 放送博物館・慈恵医大共催 N H K 放 送 博 物 館
第9回柏病院地域医療連携フォーラム 「知って納得！メタボリックシンド ロームを予防しよう」	2006年10月7日	市民一般 145名	柏 病 院
第24回第三病院公開健康セミナー 「小児の発熱について」	2006年11月3日	市民一般 35名	第 三 病 院
第20回青戸病院公開健康セミナー 「“痛み”から解放されるさわやか ライフ」	2006年11月4日	市民一般 98名	青戸病院 亀有地区センター
慈恵医大アトピー性皮膚炎フォーラム 「アトピー性皮膚炎の克服に向けて」	2007年1月13日	市民一般 134名	慈恵医大皮膚科学講座 慈 恵 医 大
愛宕山みんなの健康教室 1) 高血圧と心臓病、 2) 高齢者の運動療法	2007年3月3日	市民一般 62名	NHK 放送博物館・慈恵医大共催 N H K 放 送 博 物 館
第25回第三病院公開健康セミナー 「食べるリハビリテーション」 —近頃食べてむせませんか—	2007年3月3日	市民一般 50名	第 三 病 院

- 4) 特色ある教育・研究の推進においては、特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）の平成15年度採択事業と平成17年度採択事業の推進と、現代的教育ニーズ支援プログラム（現代 GP）の「ニーズに基く人材育成を目指した e-Learning Program の開発」に応募し、「卒前教育教材から生涯継続学習教材へ」の課題にて採択を受けた。

取組概要は下記の通りである。

「大学に蓄積された卒前教育教材を地域医療者のための生涯継続学習教材につなげていくことが大学の知の社会還元の一つであると考え、平成8年度からのカリキュラム改訂成果である平成15年度と17年度に特色ある大学教育支援プログラムに採択された授業実践を電子教材化し学生の卒前医療者教育教材としてだけでなく、広く地域医療者への生涯継続学習のための教材として e-Learning のシステムを用いて自己学習の環境の整備を行うことを目的としている。

医療者は日々の実践の中で絶えず、自らの手技を見直し、正していくことが求められている。コミュニケーションや診療技能学習において、学習者自らの実技を自ら観察して振り返るといいう「振り返り学習」を可能にする必要がある。この「振り返り学習」をまずは、イントラネットで学生教育に実践し、その成果を e-Learning に応用し「振り返り学習」の環境を生涯学習者にも提供していく。」

- 5) 医学教育、看護教育の支援については卒前・卒後教育の改善に関連して、スキルス・ラボの積極的な利活用を図ることと全学で使いやすい施設にすべく、イントラネットを利用した施設・機器貸出と申込、使用報告書の提出を行なうように整備した。

また、卒前教育関係では、GKT（キングス大学）から、Prof. Jones を招聘した。Prof. Jones は、Department of General Practice and Primary Care の主任教授で英国での General Practitioner（GP）教育について学内講演会を行なっていたいただき、英国 GP オフィスにおける医師、看護師、診療技師、医療事務員がチームになって、日常診療を行なっていることの説明と GP オフィスに学生が実習を行なう意義について学内において、討論を行なった。

- 6) 卒後臨床研修の支援については、卒後教育支援室と連携を図り、2回の研修指導医講習会を開催し、合計で61名が修了した。

・第2回研修指導医講習会（平成18年11月25日（土）、26日（日））修了者数34名

・第3回研修指導医講習会（平成19年2月17日（土）、18日（日））修了者数27名

なお、当該講習会は、厚生労働省の開催指針に基き開催し、修了者には修了証として、厚労省医政局長印と院長印の両者印が押印されたものが授与される。

その他）教育開発室に、看護学科の大石 杉乃准教授が8月30日付けにて就任（兼任）した。

8. その他

1) 成医会

(1) 第123回成医会総会は、平成18年10月12日（木）・13日（金）の2日間にわたって開催された。

① 特別講演

福田 国彦教授（放射線医学）「画像診断の進歩」

宮野 佐年教授（リハビリテーション医学）「脳卒中患者の移乗動作と日本家屋」

② 宿題報告

谷内 修教授（眼科学）「糖尿病網膜症に対する硝子体手術」

佐藤 哲夫助教授（内科学・呼吸器内科）「全身性疾患における肺病変」

関 啓子助教授（微生物学第2）「黄色ブドウ球菌と宿主細胞との関わりについて」

落合 和彦教授（産婦人科学）「子宮がん検診—昨日、今日、明日—」

③ シンポジウム

「慈恵医大における鏡視下手術トレーニング方法と展望」

司会 颯川 晋 教授（泌尿器科学）

森川 利昭教授（外科学・呼吸器外科）

1. 鏡視下手術認定試験立ち上げの経緯、現状、そして将来 浦島 充佳（臨床研究開発室）

2. 肝胆膵外科領域における鏡視下手術

—附属病院外科の現状と将来展望— 三澤 健之（外科学・肝胆膵外科）

3. 附属病院における腹腔鏡補助下大腸切除術の現状と展望

衛藤 謙（外科学・消化管外科）

4. 呼吸器胸腔鏡手術のトレーニングと将来展望 森川 利昭（外科学・呼吸器外科）

5. 産婦人科領域における鏡視下手術 新美 茂樹（産婦人科学）

6. 泌尿器科領域における鏡視下手術トレーニングの将来展望 古田 希（泌尿器科学）

7. バーチャルリアリティを活用した鏡視下手術トレーニングの現状と可能性

鈴木 直樹（高次元医用画像工学研究所）

④ パネルディスカッション

「慈恵医大創立150年に向けて」

座長 福田 国彦（放射線医学）

1. 活力ある医科大学を目指して

岡部 正隆（DNA 医学研究所 分子神経生物学研究部・器官発生研究室）

2. 慈恵医大から情報発信するために 服部 麻木（高次元医用画像工学研究所）

3. 慈恵ブランド確立への提言 横尾 隆（内科学・腎臓・高血圧内科）

4. 医療の質への飽くなき挑戦

—Donabedian からのメッセージ— 浅野 晃司（医療管理室）

5. 臨床現場からみた大学附属病院の将来像 丸毛 啓史（整形外科学）

6. 基幹病院として大学附属病院の進むべき方向 橋本 和弘（心臓外科学）

(2) 第1252回成医会例会は、平成19年2月15日（木）に行われ「日本の医療について—官邸8年を振り返って—」が講演のテーマとして選ばれた。司会は、栗原 邦弘（成医会幹事運営委員長）が務め、古川貞二郎先生（元内閣官房副長官）が講演し、最後に栗原敏成医会会長（学長）が総括を行った。

(3) 第124回成医会総会については、平成19年10月11日（木）、12日（金）の2日間にわたって開催の予定。

2) 各種行事

(1) 平成18年4月6日（木）、平成18年度医学科および看護学科入学式を挙行了した。

- (2) 平成18年8月8日(火)～10日(木)、宮崎県穆佐小学校学童2名、教諭2名の本学招待旅行が行われた。この行事は、昭和50年より始められ、今回で32回目となる。
- (3) 平成18年10月7日(土)、同窓会支部長会議・学術連絡会議が開催された。
- (4) 平成18年10月14日(土)、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (5) 平成18年10月21日(土)、卒業50周年を迎えた卒業生(昭31年)をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (6) 平成18年10月28日(土)、第102回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (7) 平成19年1月31日(水)、北原健二教授、益田昭吾教授、高津光洋教授、望月正武教授、宮野佐年教授、清水英佑教授、石川博教授、田邊晴康教授、永山和男教授、穴澤貞夫教授を囲んでの退任記念パーティーが行われた。
- (8) 平成19年2月20日(火) 献体者遺族に対して文部科学大臣よりの感謝状伝達式を執り行った。
- (9) 平成19年3月9日(金)、第82回医学科、第12回看護学科卒業式を挙行了した。

3) 印刷物等の発行(広報課)(平成18年4月～平成19年3月)

① 大学案内、PROSPECTUS 2006の発行

「東京慈恵会医科大学大学案内」「PROSPECTUS 2006 THE JIKEI UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE」を4月、6月に発行した。これらは学外者に本学の概要、歴史を理解頂くのに役立っている。PROSPECTUSは主に海外からの留学生、訪問者に配布している。

② 法人誌「TheJIKEI」の発行

平成18年10月に「TheJIKEI10号」を平成19年3月には「TheJIKEI11号」を刊行している。この法人誌「TheJIKEI」は年2回発行しているが、作成部数は、2万部でその主な配布先は次のとおりである。

- ・同窓、医学部父兄および120周年記念事業寄付者(8,100部)
- ・各医療連携病院(6,000部)
- ・4機関職員(4,400部)各種説明会等用(1,500部)

なお、同窓、医学部父兄および120周年記念事業寄付者、各医療連携病院へはメール便を利用し配送している。

③ 大学ガイド

大学広報委員会が主導となり、「平成19年度版大学ガイド」を平成18年6月に発行した。

④ 大学院ガイド

「平成19年度版大学院ガイド」については大学広報委員会および広報課が事務局となり、平成18年9月に刊行した。本年度は部門名称、内容が全面改定となった。原稿回収及び校正等に日数を要し、例年より遅い9月の発行となった。

なお、この「大学院ガイド」の内容はホームページ上に掲載している「大学院ページ」と連動している。

⑤ 大学説明会案内ポスター

「大学ガイド」の作成に合わせ平成18年6月に平成19年度用大学説明会と入試日程のポスターを作成した。

各高等学校、予備校等をはじめ、同窓会長、支部長、学術連絡委員に郵送し広報に関するご協力を頂いている。

⑥ 大学ホームページ

大学及び附属病院の情報発信のためホームページのスムーズな更新に努めた。

今年度は、初期研修医、レジデント及び職員募集ページの充実を図った。

特に看護職員募集ページを単独構成にした。総ページ数は25ページに達した。

看護職員確保への寄与が期待される。

平均月間アクセス件数は約90万ページビュー、平均月間訪問者数は約7万人を超える規模

になった。大学ホームページの重要度は年々増してきている。
さらなる充実に努めたい。

⑦ イン트라ネット

イントラネットで「理事長・学長ホームページ」「大学公示ホームページ」「広報課ホームページ」「大学・病院行事予定」及び「大学・本院会議予定」を運営している。大学の方針、最新情報を素早く共有できることが目的である。

イントラネットホームページに対する教職員の認知度が上がり、アクセス件数も本年度急増した。特に「大学・本院会議予定」及び「大学・病院行事予定」のアクセス件数が多く教職員の業務遂行に役立てている。

⑧ マスコミ対応

平成18年6月15日に青戸病院泌尿器科医療事故裁判の判決があった。多くのマスコミから取材があった。多くのマスコミ取材対応から多くの貴重な経験を得た。それ以降の医療事故などの対応に役立たせることが出来た。個々の対応を整理、システム化し広報危機管理体制を構築すべく準備を進めている。

⑨ オールユーザーメールの活用

教職員が新聞、雑誌等に掲載される時、テレビ及びラジオに出演する時にオールユーザーメールで広報した。教職員の活躍を知ることが出来、モチベーション向上に役立てることが出来た。

〔付〕 1. 平成19年度事業計画

平成19年 4月 1日

I. 平成19年度の事業概要

建学の精神を基盤として“社会のニーズに応えることのできる医療人の育成と、医学・医療の開拓”を学校法人慈恵大学の使命とし、その実現のために事業計画を立て推進する。

平成19年度の事業計画は、「質の高い医療人の育成」「医学・医療の開拓」「法令遵守の徹底」「医療安全の推進」「財政基盤の確立」を基本方針とする。

「平成19年度事業計画 基本方針」

1. 医療人の育成に関する基本方針

- 1) 質の高い医科大学と附属病院を目指して、教育、研究、診療、管理運営の改善・充実を図る。
- 2) 本学の特色ある卒前・卒後教育システムを確立する。

2. 医学・医療の開拓に関する基本方針

- 1) 特色ある研究と診療を推進し、競争的研究資金の獲得を目指す。

3. 法令遵守の徹底に関する基本方針

- 1) 教職員の法令遵守の意識を高める。

4. 医療安全の推進に関する基本方針

- 1) 患者サービスを改善充実させる。
- 2) 科学的根拠に基づいた手法で医療安全の向上を図る。

5. 財政基盤の確立に関する基本方針

- 1) 収入増と経費の削減を図る。

II. 法人運営に関する計画

1. 法令遵守の徹底

- 1) 慈恵大学行動憲章・行動規範の徹底と内部監査室による不正行為防止の推進を図る。
- 2) 公益通報制度の周知と有効利用を促す。
- 3) 補助金の監査を継続的に実施し公的資金適正使用を徹底する。
- 4) 個人情報保護に関する注意を継続的に喚起する。

2. 財政基盤の確立

- 1) 業務の改善、組織および要員配置の見直しを行い職員数の適正化を図り、業務の効率化と人件費の抑制を図る。
- 2) 学内横断的タスクフォース活動の全学的普及・拡大を図り、経営の見直しを推進し、経費の抑制と医療収入の増収を図る。
- 3) 平成19年度帰属収支差額目標を8億円（現・預金積み上げ5億円）とする。

3. 人材育成・教育制度の構築（ヒューマンリソースマネジメントの検討）

- 1) 人材育成のための教育制度を構築する
- 2) 教員評価システムの稼動による効率的な教員・医師人事制度の実現、および体系的な教職員人事評価制度の検討を進める。

4. 広報活動の充実

- 1) 広報部門の充実を図り、本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献などの情報）を積極的

に学内外に発信する。

- 2) 問題が発生したときに速やかに対応できるように青戸病院、第三病院、柏病院における広報体制の充実を図る。

5. 青戸病院リニューアルプロジェクトの推進

- 1) 医療人育成と良質の医療を实践するため、青戸病院リニューアル計画を推進する。
- 2) 青戸病院の建替えに関して、行政折衝、地域住民合意を経てプロジェクトを推進し、基本設計の具体案を策定する。

6. 本院外来棟建築計画に向けた準備

- 1) 本院外来棟の建築に向けてプロジェクトチームを立ち上げ、西新橋キャンパス全体を視野に入れた将来計画を立てる。
- 2) 4 附属病院の機能分化、特色化、および西新橋キャンパスの有効利用を考慮した基本的コンセプトを策定する。

7. 大規模災害発生時の危機管理体制の整備

- 1) 全学的な大規模災害対策指針の周知と大規模災害発生を想定した 4 機関の連携・支援体制を確立する。
- 2) 4 機関における大規模災害発生時のマニュアルに基づく訓練の実施体制を整備する。

8. IT 化の推進

- 1) 附属病院オーダリングシステムの導入に続いて、診療部門の IT 化推進と、今後の IT グラウンドデザインの再構築を図る。

Ⅲ. 教育・研究に関する計画

1. 特色ある教育・研究の推進

- 1) 医学科カリキュラムの点検とより質の高い卒前教育を推進する。
- 2) 教育センターの支援を受けて医学教育、看護教育、卒後臨床研修、専門修得コースの改善・充実を図る。
- 3) E-learning を導入し、シラバスの電子化と公開を推進する。
- 4) 4 附属病院を活用した多用な看護師育成プログラムを確立する。
- 5) 大学院改革の継続的推進と大学院生数の増加へ向けた改善を図る。
- 6) 特色ある看護学科大学院修士課程設置に向けた準備を進め必要な手続きを完了させる。
- 7) 特色ある教育・研究を推進するため、学外研究資金の獲得や導入に積極的に取り組む。
- 8) 特色ある教育・研究を推進するためにグローバル COE など大型資金の獲得を目指す。

2. 卒後教育の充実・改善

- 1) 初期臨床研修に続く専門修得コースプログラムの改善・充実を図る。
- 2) 生涯学習センター活動の充実・改善を図る。
- 3) 看護師の再教育システムを検討する。
- 4) 大学基準協会の「医学教育に関する基準」に準じた本学の教育の検証を行う。

3. 入学試験の改善

- 1) 医学科入試の問題点を継続的に検討する。
- 2) 看護学科の入学試験応募者数を増やすための具体策を検討する。

4. 大学間の連携の継続的検討

- 1) 上智大学、首都大学東京などとの連携を推進する。

IV. 診療に関する計画

1. 医療安全管理の推進

- 1) 4 附属病院の医療安全推進室を強化し慈恵グループとしての連携を推進する。
- 2) 4 附属病院の医療安全管理体制の点検評価と事故などへの迅速対応体制を確立する。
- 3) 医療安全管理に関するワークショップ、シンポジウム、医療安全週間を継続して実施する。
- 4) 本学が中心となり、私立医科大学協会での活動を通して全国の私立医科大学病院における医療安全の推進に貢献する。
- 5) 医療の質と技術の向上のための取り組みを推進する。
- 6) システム工学の視点で医療安全管理体制を点検し問題点を抽出する。

2. 先進医療の推進

- 1) 患者のニーズに応える先進医療に積極的に取り組む。
- 2) 低侵襲的手術を始めとした先進医療のトレーニングシステムを構築する。

3. 患者サービス・病診連携の推進

- 1) 患者支援・医療連携センターの機能を充実させ、病診連携の強化と病床利用の効率化を図る。
- 2) 診療体制と病院環境の整備を行い患者満足度の向上を図る。
- 3) 医療情報を積極的に開示する。
- 4) 市民公開講座を積極的に開催する。

4. 効率的な医療の推進

- 1) 平成20年度の青戸病院、第三病院、柏病院における、DPC 導入前に事前準備をして円滑な導入を図る。
- 2) DPC に対応したクリニカルパスを普及させ、治療の標準化を図り、安全で効率的な医療を推進する。
- 3) 附属病院のオーダーリングシステム導入を遅滞なく行う。
- 4) 医師、看護師、コメディカルの業務分担の見直しを図る。
- 5) 学内横断的タスクフォース活動を 4 附属病院で普及させ、慈恵グループ全体の医療の効率化と収益力の向上を目指す。

5. 予防医学の推進

- 1) 「総合健診・予防医学センター」と各病院の健診部門との連携を強化し発展させる。
- 2) スポーツクリニックとスポーツ医学の再興
スポーツクリニックとスポーツ医学研究を見直し、一般人を対象とした運動処方と栄養指導を行う。また、スポーツクリニックを支援する体力医学研究を推進する。

6. 森田療法センターの開設

- 1) 第三病院に森田療法センターを開設し、本学の特色ある医療を広く情報発信する。

7. 4 附属病院の救急診療のあり方と本院のバックアップ体制を検討する。

2. 本学出身者・関係者の他大学教授等一覧表

(平成19年4月現在)

1) 医学部役員・教授

氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
大堀 勉	岩手医大	理事長	昭24	岩手医大
御手洗 哲也	埼玉医大	内科	昭46	
國分 眞一朗	日大医	生理学	昭53	
小西 真人	東京医大	生理学	昭55	
中尾 俊之	東京医大	人工腎臓部・腎臓科	昭47	
白土城 照	東京医大	眼科	昭50	
伊藤 克己	東京女子医大	腎総合センター	昭39	
黒澤 博身	東京女子医大	心臓外科	昭44	東北大
本間 生夫	昭和医大	生理学	昭48	
倉石 安庸	東邦大医	血液・腫瘍科	昭44	
長谷川 和夫	聖マリ医大	特別顧問	昭28	
田所 衛	聖マリ医大	病理学	昭45	
斎藤 宣彦	聖マリ医大	内科	昭42	
三宅 良彦	聖マリ医大	内科	昭47	
青木 治人	聖マリ医大	学長	昭43	
別府 諸兄	聖マリ医大	整形外科	昭50	
橋本 卓雄	聖マリ医大	脳神経外科	昭47	
名越 温古	聖マリ医大	血液・腫瘍科	昭46	
曾爾 彊	名古屋市立大	解剖学	昭46	
石川 元	香川医大	医学心理学	昭51	
屋代 隆	自治医大	解剖学	昭53	
篠田 宗次	自治医大	脳神経外科	昭48	
徳留 省悟	獨協医大	法医学	昭48	
永森 静志	杏林大医	総合医療学科	昭42	
高山 誠	杏林大医	放射線科	昭51	
浜田 良機	山梨大医	整形外科	昭44	
北村 正敬	山梨大医	分子情報伝達学	昭61	
築根 吉彦	帝京大医	放射線科	昭48	
池田 義隆	佐賀大医	細胞生物学	平元	
小澤 一史	日医大	解剖学	昭59	
仲嶋 一範	慶應大医	解剖学	昭63	慶應大
御子柴 克彦	東大	医学研究所	昭44	慶應大
田口 芳雄	聖マリ医大	脳神経外科	昭50	
重松 隆	和歌山県医大	腎臓内科	昭56	久留米大
河野 照茂	聖マリ医大	スポーツ医学	昭51	金沢大
春名 眞一	獨協医科大学	耳鼻咽喉科学	昭60	
佐藤 哲夫	国際医療福祉大	呼吸器内科	昭51	

2) 歯学部教授

氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
白川 正順	明海大歯	歯科	昭47	日本歯科大
青柳 裕	東京歯科大	放射線科	昭53	
影山 幾男	日本歯科大新潟歯学部	解剖学	昭57	日歯大新潟
中島 庸也	東京歯科大	耳鼻科	昭55	

3) 薬学部教授

氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
橋本隆男	東京薬科大	病態生理学	昭41	
柴敏昭	共立薬科大	薬物治療学	昭46	

4) 体育学部教授

氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
岩垣丞恒	東海大	体力医学	昭41	東京学芸大
合志徳久	鹿屋体育大	体力医学	昭36	熊本大
倉田博	鹿屋体育大	副学長	昭40	東京学芸大
大野誠	日体大	スポーツ医学	昭50	
小野寺昇	川崎医療福祉大	健康体育学	昭54	福島大
小林啓三	国際武道大学	運動生理学	昭47	日本体育大学
成沢三雄	国際武道大学	学長	昭44	東京学芸大
原田邦彦	防衛大学校	体育学	昭41	〃
森本茂	横浜国立大	教育人間科学	昭49	〃
太田眞	大東文化大学	健康科学科	昭54	
久保宏隆	聖徳大学	生活文化学科	昭43	
木下正信	首都大学東京	健康福祉部	昭57	東京学芸大

5) その他の役員・教授

氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
吉岡利忠	弘前学院大学	学長	昭43	
増野肇	ルーテル学院大学	社会福祉学科	昭34	
服部恒明	茨城大	解剖学	昭40	東京教育大
大槻文夫	東京都立大	理学研究科	昭36	〃
江口保暢	麻布大獣医	解剖学	昭28	東大農
田中悦子	横浜国大	保健管理センター	昭51	東京女子医大
小坂井守	帝京大	病理学	昭39	
近藤喬一	大正大	人間学部	昭28	
山本卓二	足利短大	精神保健学	昭34	
荒川靖子	神戸市看護大	成人看護学	昭50	徳島大
赤塚順一	聖徳大学	児童学科	昭30	
柄澤昭秀	聖徳大学	児童学科	昭30	
所敏治	聖徳大学	児童学科	昭50	
大和田操	女子栄養大	小児栄養学	昭42	
美田誠二	川崎市立看護短大	病態生理学	昭51	
深川ゆかり	山口大	医療環境学	平元	九州共立大
寺崎明美	長大	保健学科	昭57	立正大
辻井啓之	奈良教育大学	保健管理センター	昭61	
北西憲二	日本女子大学	人間社会学部	昭45	
丸山晋	淑徳大学	精神科リハビリテーション	昭43	
作山攜子	駒澤短期大学		昭40	
高橋照子	法政大学	文学部心理学	昭55	弘前大
近藤和雄	お茶の水女子大	生活環境学	昭54	
中原英臣	山野美容芸術短大		昭45	
前川喜平	神奈川県立保健福祉大学	人事総合専門基礎科	昭34	
野口昌幸	北海道大学	遺伝子病制御研究所	昭57	
鈴木博	神奈川県立保健福祉大学	栄養学科	昭46	

氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
井手隆俊	健康科学大学	険科学科	昭47	
碓井外幸	武蔵丘短期大学	健康生活科	昭47	国土館大
谷口清	文教大学	人癌科学部臨床心理学科	昭59	東京教育大
藤代健太郎	東邦医大	教育開発室	昭52	
渋谷まさと	香川栄養大学短期大学部	生理学研究室	昭59	
繁田雅弘	都立保健科学大		昭58	
海原純子	白鷗大学	発達科学部	昭51	
宮川三平	聖徳大学	児童学科	昭48	
佐橋徹	静岡大学短期大学部	看護学科	昭44	

6) 外国大学教授

氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
潘家棟	ハーバード大	熱帯公衆衛生	昭22	
劉秉輝	ルイスビル大	細菌学	昭22	
山田昌慶	ミシシッピ大	脳外科	昭24	
萩野信義	テキサス大サンアントニオ大分校・歯	解剖学	昭32	
Yoko Mullen	カリフォルニア大・歯	生理学	昭33	
賀古暁平	オタワ大	生理学	昭28	
安部美那子	ダナファーバー癌研究所	生化学	昭45	お茶の水大

7) 医学部・その他の学部の元教授（物故者を除く）

氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
鈴木鍾美	岩手医大歯	口腔病理	昭25	
奥田千秋	獨協医大	麻酔科	昭28	
日野原正	獨協医大	気管食道科	昭30	
長谷川元治	獨協医大	臨床生理機能	昭37	
大黒勇	東京医大	細菌学	昭13	
三木誠	東京医大	泌尿器科	昭35	
市川三太	昭和医大	生理学	昭21	
山本龍二	昭和医大	整形外科	昭31	
仲吉昭夫	昭和医大	外科	昭35	
藤井正道	聖マリ医大	放射線科・学長	昭28	
平井正直	聖マリ医大	薬理学	昭27	
山村行夫	聖マリ医大	公衆衛生	昭27	
染谷一彦	聖マリ医大	内科	昭27	
清水進	聖マリ医大	内科	昭30	
石田尚志	聖マリ医大	内科	昭36	
嶋田甚五郎	聖マリ医大	細菌学	昭37	
長尾悌夫	聖マリ医大	整形外科	昭29	
太根節直	聖マリ医大	眼科学	昭29	
鈴木卓朗	聖マリ医大	解剖学	昭30	
村井俊介	聖マリ医大	内科	昭33	
工藤吉郎	聖マリ医大	衛生学	昭33	
藍沢鎮雄	聖マリ医大	神経精神科	昭35	
水島裕	聖マリ医大	臨床検査医学	昭33	
石川透	聖マリ医大	放射線科	昭36	

氏名	大学名	専門	卒業年度	備考
作山 攜子	聖マリア医大	放射線科	昭40	
山崎 誠	聖マリア医大	整形外科	昭35	
関野 宏明	聖マリア医大	脳神経外科	昭38	東大
堤 昌己	杏林大	耳鼻咽喉科	昭30	
笠原 行喜	杏林大	耳鼻咽喉科	昭30	
千野 一郎	杏林大	泌尿器科	昭27	
小林 清	杏林大	小児科	昭29	
古里 征國	杏林大	病理学	昭43	
銭場 武彦	広島大医	生理学	昭16後	
渡辺 俊男	お茶の水女子大	教育学部体育科	昭16前	
池田 道雄	東京女子医大	放射線科	昭30	
白坂 龍曠	東京女子医大	寄生虫学	昭27	
横山 泉	東京女子医大	成人医学センター	昭37	
中田 福市	琉球大医	生化学	昭26	日歯大
小川 重男	川崎医大	産婦人科	昭26	
小暮 久也	東北大医	神経内科	昭37	
北川 照男	日大医	小児科	昭25専	
鳥海 純	昭和薬科大	基礎医学	昭27	
市川 厚	横浜市大医	解剖学	昭25	京府医大
内藤 道興	藤田保健衛生大	法医学	昭23	北大
藤江 善一郎	横浜国大	衛生学	昭25	
小田嶋 悟郎	岡山大	解剖学	昭26	
南雲 祐司	日本歯科大	解剖学	昭21	
佐藤 亨	日本歯科大	解剖学	昭30	
山崎 可夫	東京歯大	耳鼻咽喉科	昭25	
深田 英朗	日大歯	小児歯学	昭21専	
坪井 実	東京薬科大	生理学	昭25専	
伊藤 鋌夫	東京女子体育大	運動生理健康	昭20	
菅沼 達治	東海大	公衆衛生学	昭26	
山田 熹政	法政大	公衆衛生学	昭26	
高宮 靖	東海大	健康医学	昭28	
大原 健士郎	浜松医大	精神神経科	昭31	
井上 哲郎	浜松医大	整形外科	昭33	
酒井 糾	北里大医	泌尿器科腎センター	昭37	
小柴 健	北里大医	泌尿器科	昭31	
石橋 晃	北里大医	泌尿器科	昭35	
赤松 功也	山梨医大	整形外科	昭33	
安田 寛基	帝京大医	病理学	昭26	
中村 治雄	防衛医大	内科	昭34	慶大
斎藤 泰一	川崎医療福祉大	保健看護学	昭30	
磯田 和雄	埼玉医大	内科	昭35	
中野 昭一	日体大	スポーツ医学	昭25	
伊藤 朗	筑波大	運動生化学	昭44	東邦大
橋本 信也	国際学院埼玉短大	副学長	昭34	
塩田 俊朗	帝京大医	解剖学	昭31	東大農
米本 恭三	都立保健科学大	学長	昭33	
尾野 成治	福島大	精神医学	昭22	
橋田 ちせ	横浜国大	公衆衛生	昭37	
川名 林治	岩手医大	細菌・感染	昭24専	岩手医専

氏 名	大 学 名	専 門	卒業年度	備 考
伊 藤 忠 信	岩 手 医 大	薬 理	昭33	岩手医大
伊 藤 克 己	東 女 医 大	兒 科	昭39	
赤 塚 順 一	聖 徳 大 学	兒 童 学 科	昭30	
宮 田 捷 信	明 海 大 歯	内 科	昭42	